夕刊
京城日報
夕刊一部 定價金貳錢
編輯發行人 新聞印刷人 岩田三
京城府太平通一丁目三十一番地 發行所 合資會社京城日報社

英首相の聲明粉碎
ヒ總統愈よ爆彈演說
英の中歐容喙に警告

ヒトラー總統

【ベルリン特電卅一日發】廿九日のダラディエ佛首相の演說、卅一日のチエンバレン英首相の聲明につぎヒトラー總統は愈よ一日一大演說をなすが、これはソ聯に對する獨逸の回答とも見られ注目されてゐる。確聞するにヒトラー總統はチエンバレン英首相が獨逸の中歐ポーランド侵略なる虛構の危機に基き中歐に容喙せんとする態度に警告を與へるものと豫想さる、獨逸政府筋ではヒトラー總統が次の行動に對し如何なる決定をなすかについては沈默を守つてゐるが、獨逸各紙はポーランドに對する新たな攻擊を行ふ基礎としてポーランド人の反獨行爲を注意深く揭載してゐる

事實上の軍事同盟
チ英首相の聲明要旨

【ロンドン卅一日同盟】チエンバレン首相は三十一日午後下院でイギリス、フランス、ポーランド三國間の事實上の軍事同盟を發表したが右聲明によりイギリスの國境はライン河の流れから遙か東のヴイスツラ河畔に移り十八世紀以來イギリス政府の傳統政策たる光榮の孤立は完全に清算された、即時自主的軍事援助を公約した點においてイギリス政府今回の聲明は大戰前の三國協商に比し百尺竿頭一歩を進めたものであることは消息通の一致した見解である聲明の要旨次の通り

一、ポーランドに對する即時且つ自動的な軍事援助を公約

一、但しポーランドの獨立が脅威され且つポーランド政府が國軍を以て抵抗する必要を認める場合との條件付である

しかして獨立といつただけで領土的などの字句がないためドイツがポーランドに要求してゐると噂されてゐるダンチッヒ割讓、ポーランド廻廊を通過する自動車道路建設等の場合には、今回の協約は發動しないとの解釋が有力であり、且つ聲明文面ではイギリス政府は和戰決定をポーランド政府に委ねる結果とならうがこれらの細目はベックポーランド外相の來訪を待つて取極められることにならう、

チエンバレン聲明は要するに中間的處置である、しかしてイギリス外務省ではフランス、ポーランド兩國間の一九二一年の同盟條約に準據してポーランド政府との共同聲明案が出來てゐるといはれるがこれはベック外相來訪の機會に決定をみることにならう、イギリス政府としては更に出來得ればルーマニア、ユーゴスラビア、トルコ、デンマーク各國とも同樣の協約を締結したい意向であり、ソ聯政府との同盟並に國際會議案又は不侵略宣言案等も放棄されたわけではないと稱してをる、たゞイギリス外務省ではチエンバレン首相の聲明と相前後して、記者團を招待し聲明の主旨について說明を加へたが、その際特に聲明に先立ちアメリカ政府と十分協議した旨強調した

波援助、佛も同意見
チ首相下院で言明

【ロンドン卅一日同盟】三十一日イギリス下院で勞働黨首代理グリンウッド議員より「最近の國際情勢の累迫に鑑み首相は全般的憂慮の念を減ずるためなんらかの確信を與へることは出來ないか」との質問あつたのに對しチエンバレン首相はイギリス政府はポーランド援助の用意ある旨の重大決意を有すると共にフランス政府も亦同意見であるとし左の如く言明した

諸君も御承知の通り目下ある種の協議が外國政府間に進行しつゝあるので右交涉が終了するまでの期間內におけるイギリス政府の立場を明かにするため余は本院に對し右期間中に明かにポーランドの獨立を脅威する行動がとられ、且つポーランドが國力を總けてこれに抵抗する必要を感ずる場合にはイギリス政府は直ちに全力を盡してポーランド政府を援助する義務を感ずるであらう旨を申上げねばならぬ、イギリス政府はポーランド政府に對し右限度までの言質を與へたのである

こゝに一言したい事はフランス政府も亦この問題に關しイギリス政府と同じ立場であり、フランス政府はこの事を闡明する權能を余に與へたことである、ポーランドに對する攻擊が計畫されてゐるとい噂は承知してゐる、然し余はこの噂につきなんら公式な確報に接してゐない、從つて政府がかゝる風評を信じてゐると觀測すべきではない、政府はソ聯政府を始め諸外國政府と目下協議中でありハリフアツクス外相は本日ソ聯大使と極めて長時間に亘り協議を行つた、余はイギリス政府のとりつゝある行動方針はソ聯政府の充分な諒解と支持を受けてゐるものと信じ疑はない

加藤、長谷川兩提督親任式

【東京電話】既報の通りでは軍事參議官加藤隆義中將、横須賀鎭守府司令長官長谷川清中將に對し現職のまゝ大將に親任の御沙汰あらせられ、一日午前十時宮中鳳凰間において平沼首相侍立の上親任式を行はせられ、兩中將に對しそれぞれ親任の勅語を賜ひ、首相より官記を授けた【寫眞=上加藤下長谷川大將】

軍事參議官海軍中將 從三位勳一等功三級 子爵 加藤隆義

橫須賀鎭守府司令長官海軍中將正四位勳一等功四級

海軍省發表

任海軍大將(各通)

長谷川 清

【東京電話】四月一日午前十一時海軍省發表=軍事參議官海軍中將子爵加藤隆義、横須賀鎭守府司令長官海軍中將長谷川清は四月一日付をもつて海軍大將に進級、その親任式は午前十時宮中において行はれたり

艦隊司令長官親補式擧行

【東京電話】練習艦隊司令長官の親補式は一日午前十時より宮中鳳凰間において執り行はせられ右に關し海軍省では左の通り發表した 海軍省公表(一日午前十一時)本日附左の通り親補仰付せらる

海軍中將 谷本馬太郎

補軍令部出仕

海軍中將 澤本頼雄

補練習艦隊司令長官

教育令改正第一回記念日 奉祝の學生生徒(朝鮮神宮で)

兩相專任補充
遞相に田邊翰長、拓相に勝田氏
實現の可能性濃化

【東京電話】遞、拓兩相の專任補充について政府は議會終了後適任者を得次第一日も早くこれを決定したい意向で平沼首相を中心としてその詮衡を進めつゝあつたが、鹽野遞相は一日午前十一時平沼首相と官邸において會見、同問題について初めて重要進言をなす事となり幾分人選難に陷るのではないかと見られた同問題は俄然局面は急展開を見せるに至つた、しかして遞、拓兩相の補充については右と關連して首相と最も緊密な關係にある田邊書記官長の轉出問題が最先に問題となり、後任書記官長に適任者さへあれば田邊翰長の轉出は今日においては最早既定の方針と見られ、その椅子について首相は遞相をもつて兩相補充してゐる程であるので、兩相補充問題は實際上田邊翰長の遞相轉出に伴ふ後任書記官長並に專任拓相補充問題となつて來た

鹽野法相は首相との會見においては自己の手許に集つた各方面よりの情報並人選についての進言を基礎として首相に進言するものとみられる、即ち先づ書記官長については田邊書記官長の遞相轉出は既定の事實として後任に元警視總監小栗一雄、現台灣總督府總務長官森岡二朗兩氏の呼聲が高いが、結局平沼門下の中堅として首相に最もよい現首相秘書官太田耕造氏の起用が適任である旨強調し、又拓相後任としては前滿鐵總裁松岡洋右、興中公司社長十河信二、貴族院議員樺山資英の諸氏が擧げられたが結局荒木國本社系として平沼首相と最も親交ある元藏相勝田主計氏を最適任者として推挽する意向である

この鹽野法相の進言は首相の意中を決定するについて極めて有力な發言で首相の意中も大體法相同樣

十四年度 貯蓄目標百億圓

【東京電話】昨年度の目標八十億に引續き第二年度は愈よ今一日から開始されるが、三十一日の貯蓄獎勵委員會の答申で愈よ本年度の貯蓄目標は百億圓に正式決定した、昨年と異つて特に力點をおかれたのは股販事業方面の金を吸收することと、このためには個人のみならず會社の法人貯蓄を奬勵すること、貯蓄は生活の剩餘からでなく切詰めによつて生み出させると廣汎な生活刷新運動を起すこと等であるが、その實行法としては從來の官僚中心主義を排して廣る民衆の嚴密主義に移し現在全國で組合數三十一萬餘組合人員一千九百萬人に上つてゐる貯蓄組合を一層普及させ各府縣別に貯蓄目標額を定め各組合には貯蓄倍加運動によりこの目的を達成させ

場合によつては部落會町會等に一種の「貯蓄方面委員」とでもいふべき實行委員をおいて實績を上げることで檢討を行ふ意向といふのである、石渡藏相も「强制はしないが貯蓄ゲ・ペ・ウを設ける必要がある」とはつきりしたことをいつてゐる、以下委員長津島壽一氏提へて一問一答を試みる【寫眞=津島壽一氏】

問 百億目標の基礎は

答 公債六十億、生產擴充資金四十億、十四年度に入るとこれだけは是が非でも貯蓄に吸收しなければならん

問 昨年の八十億も相當の負擔だつたやうですが

答 稅金と異つて取上げるのではないから負擔といふ言葉は當らない、人口一億とみて一人一日二十七錢を貯めればよいのだ、貯蓄は必ずしも餘うた金を預けるのではない、借金を返へすために貯金組合をつくつた例さへある

問 貯蓄を生み出す方法は

答 生活の刷新である、無駄排除協習回收により例へば國民服等も結構だが着られる服があるのに新しいのをつくるのは何にもならない

公債一億二千萬元發行

【ニューヨーク卅一日同盟】重慶よりのUP來電によれば蔣政府は近く各六千萬元、總額一億二千萬元の彪大な額に上る公債二種類を發行するに決定した旨明かにした

長沙の防衛に狂奔
蔣、南昌陷落に狼狽

【上海卅一日同盟】重慶よりの支那側報道によれば南昌陷落に狼狽した蔣政府軍事當局は更に長沙危しと見て第九戰區總司令薛岳を中心に連日防衛を續けてゐる、長沙防衛方針としては湘贛公路及浙贛鐵道萍鄕株州間の前線强化に全力を傾注しこの線に新保壘を築き數百キロに亘る土壕を掘りつゝあり現に蔣政府は五十萬の大軍と最有力機械化部隊をこの方面に配してゐるが更に貴州雲南四川方面よりも精鋭部隊を送り湘南方面においてはこれら軍隊は續々東進中

の陣陣を失つた敗殘は西部南潯線及瀟江(贛江支流)を利用し、算を亂して西方に潰走中であるが、日中は我が空軍の爆擊を恐れ山中や民家に分散し、身を潜め夜に入るを待つて民船、馬車で株州方面に向つて敗走中である、この敗殘

南昌の敗敵を陸の荒鷲猛爆

【○○基地卅一日同盟】南昌附近の敗敵に對し陸の荒鷲秋山、下田、石原、前島、田中、森、荻原、浦中各部隊は連日これに猛爆を加へてゐるが、三十一日午後も折柄の惡天候を衝いて臨江、袁州間の敗敵を追ひ新喩、分宜、昌山、袁州各驛に集結せる數十輛の列車に巨彈の雨を浴びせ殊に昌山西北地區の敵陣地には火焔を生ぜしめ多大の戰果を收めて悠々基地に歸還した

よみられるので繆任拓相に勝田主計氏、繆任遞相兼書記官長田邊治通氏その後任首相秘書官太田耕造氏の顏觸れはここに實現の可能性が濃化し來つたものとして極めて注目されてゐる【寫眞=(上)田邊翰長(下)勝田氏】

防護團を强化
釜山で北村防護課長語る

【釜山電話】大日本消防協會常務委員會出席の傍ら內地大都市北九州等の防空施設の視察を行つた北村本府防護課長は一日朝釜山上陸鐵道ホテルで少憩の上鎭海要塞司令部を訪問、二日朝歸城の豫定であるが釜山鐵道ホテルで語つた

四月一日から內地は消防組、防護團を統制し警防團となる、消防協會は警防協會に改組されるが朝鮮の防護團は早急に警防團に改組出來ぬ、實質的に强化を必要とするので差し當り指揮命令系統を警察署長に屬することになつた、この結果防護團長は從來の府尹邑長でなく自然消防組と同樣民間有力者から選ばれることとならうし團員も數より質の精選に重きをおいて現在の三分一程度に縮少して訓練の徹底を圖り消防組同樣に强固な團體に育てると共に警備の全力を家庭に還元し家庭防護組合を强固にしたい、警防團に改組はこれらの諸點が充實した後でよいと思つてゐる、大日本警防協會と實質的に關係を持續してゆくつもりである

國民よ起て
ム首相獅子吼

【ローマ卅一日同盟】南イタリーの動員狀況視察のため南下したムツソリーニ首相は、三十一日午前十時半メッシナ海峽に臨む小邑レジオで地方民衆を前に卅分間に亘り獅子吼を試み、國際政局に對するイタリーの强き態度を左の通り闡明した

外國の勢力下にあり、その言語、風俗、法律などの影響を受ければ弱くなる、我々はかゝる境遇にある同胞(チュニス在住のイタリー人を指す)を救はねばならぬ、汝等は何時も忘るゝ勿れ、常に準備して時機の到るを待て、かくて最後の勝利を確保しよう國家も人民も軍隊も背面にものだ、斷然一體とならなければならぬ、若き國民よ、武裝して起て、そしてイタリーの國運の進展を阻害するものを討て、最後の勝利は我々のものだ

波り兩國不可侵條約交涉を進む

【ワルソー卅一日同盟】ドイツの進出に伴ひポーランドの態度が注目されてゐるがワルソー消息通方面ではポーランド、リトアニア兩國方面では多年の宿怨を水に流して不可侵協定を締結すべく交涉を進めてをるといはれる、政府筋では右報道を確認も否定もしてゐないがポーランド新聞も兩國國交關係强化の重要性を專ら强調してゐる

佛印入の支那人嚴重に取調べ

【ハノイ卅一日同盟】佛印當局では曾仲鳴事件に鑑み佛領內に入る支那人の旅券查證發行につき身元檢査を一層嚴重にすることとなりその手配をなした、一方犯人等の使用せるモーゼル拳銃等はいづれも佛外より搬入されたものなるに鑑み、今後は入國支那人の手荷物その他に對し極めて嚴重な取調を行ふこととなつた

本府辭令 (卅一日附)

實業學校教諭荒井孝夫▲本府判事吉川信太郎▲同鹽見米藏▲同山本光顯▲高女校長兼教諭加藤隆治▲實業學校長兼教諭池北誠庚

▲專門學校教授佐々木貞次郎▲京城帝大助教授橋本種次▲本府郡守鄭雲彧▲同柳詩煥▲道立醫院醫官高田徹五▲本府技師太田國次郎▲獸疫血淸製造所技師越智男一▲遞信事務官兼高等海員審判所理事官上野武雄▲鐵道局參事本府事務官澤茂▲鐵道局參事中田勝▲道事務官本多武夫

陞敍高等官四等(各通)

本府典獄水町忠三▲公立中學校教諭肥田來作▲道立醫院事務官小杉茂▲公立專門學校教授青木義男▲京城帝大助教授天野利武▲專賣局副事務官吉田貞次▲本府道警視大和田臨之助▲本府郡守文東錫▲同金尚涌▲同金永默▲本府技師若宮敏次郎▲遞信技師兼地方海員審判所審判官平尾一郎▲道警視尹錫健▲鐵道局副參事兼本府事務官堂本敏雄▲稅務監督局事務官水橋武比古▲本府技師兼農事試驗場技師內山能男▲同岩永達夫

陞敍高等官五等(各通)

公立實業學校教諭兒山傳▲公立中學校教諭北方榮之助▲京城法專教授江口己與吉▲同松濱德三郎▲公立中學教諭丸田彥六▲專賣局副事務官茂木四郎▲實業學校教諭兼京城高工教授相花植▲本府郡守森芳介▲專賣局副事務官岩下武▲道小作官仲磯三▲本府郡守李殷禎▲實業學校長兼教諭八木正男▲道小作官吉田正武一▲本府判事崔龍錫▲本府檢事永田敏男▲同李炳華▲松岡嶽人▲本府檢事岡田唯雄▲本府判事古川初男▲同名嘉眞武勝▲同有吉正明▲同村田繼男、▲本府郡守金禮節▲同平川保彥▲本府事務官赤田正雄▲鐵道局技師熊谷一郎▲同齋藤房吉▲同岡田秀平▲道立醫院醫官兼專門學校教授小山芳雄

陞敍高等官六等(各通)

本府郡守 林 維 俊

陞敍高等官七等

測候技師布村重次郎▲土木技師後藤佐吉

任府理事官武彥一

陞して高等官九等を以て待遇せらる(各通)

陞して高等官四等を以て待遇せらる

産業技術官濟川恭司▲產業技師今村新▲土木技師補兼道技手太田澄

陞して高等官六等を以て待遇せらる(各通)

▲忠南小學校長 內川 千秋

高等官七等を以て待遇せらる

▲京畿道小學校長宮本伊之吉▲同川村啓治▲同池田豊一▲同村瀨善典▲忠南小學校長山形那夫▲同杉村兎喜治▲同吉木安助▲慶北長有村正浩▲同富田三次郎▲同平塚齊▲同中神義榮▲同松岡恒喜▲慶南同長久保倉一▲同井田舉▲同泉伸▲江原同長三本喜之助▲同金治振▲咸北同菅野敬一▲同倉澤藤三郎▲同浦田三作▲同內田富治▲同伊藤貫一▲同富永政市

高等官八等を以て待遇せらる(各通)

人

◇右近又學氏(朝鮮化學工業專務)一日午後一時三十五分「あかつき」で入城朝鮮ホテル

◇弘中良一氏(弘中商工社長)五日午後四時十五分京城發「あかつき」で江原當務取締役帶同、東上の豫定

時の錄音

南支那派の新南鮮局の歸屬をはつきりしたことは目出度い。

×

際に、フランスに通告した態度は、誠に行屆いた措置。

×

けふ、改正教育令實施一周年。國語も國語だが、國體の本義闡明に盡した一年は尊い。

×

新入學の兒童や生徒よ、嬉しくはあつても惡戲るでないよ。

×

新稅、增稅を殺すな。

×

イギリスのあせる姿や茶の

開花三世相 (147)

梢風作　中一彌畫

迷路 (五)

お蝶に縛られてゐたので、

「コレ女、お前は此の家の者か」

「……」

「米津民次郎は何處へ行つたか云へ」

「貴所……雅之助様でございますか?」

「うん、いかにも拙者は稻葉雅之助だが、お前は誰だ?」

「米津民次郎は先刻迄此處に居りましたが、萩橋と云ふ人が來て、貴方樣が此處へ來るかも知れぬと云つて二人で逃げて行きました」

「さうか。行き先を知つてゐるか?」

「向島へ行つて隱れようと云つて居りました。途中は山谷堀から船を出させて渡るとのことでございました」

「よく云へて呉れた、禮を云ふぞよ」

から云つて雅之助は倉皇として飛び出さうとしたが、女が縛られてゐるのに氣が付いて、

「お前はどうして此處に縛られて

ゐる」だか知らないが、救へて與れた返禮に縄を解いて遣る

縄めを解いた。

「有難う存じました」

お蝶は手を突いた。

「稻葉樣、妾は蝶と申す賤しい身分の者でムいますが、實は萩原左文治殿に由緣がムいまして」

「何! 萩原氏の由緣の人か——では、左文治殿の成り行きは御存じあるまい」

「ハイ」

「萩原氏は討死なされたぞ」

「ひえッ!」

「拙者は先を急ぐ故、詳しく語る暇はない、御緣もあらばまた會はう」

さらば

と云ひ捨てゝ雅之助は此の家を飛び出した。

「邏卒——?」

お蝶は呼吸が止まりさうに驚いた

「邏卒で何處を擊たれたんですか?」

「擊たれた場所は判らしいが、逃げることが出來ぬから、大方今頃は官軍の奴等に斬り殺されたに相違ないよ」

お蝶は「わッ」と泣きさうになつたのをやツと耐へて唇を嚙んでゐる。

民次郎は身支度を整へ、貯への金子を殘らず胴卷に入れて身に附けて出て來た。

「併し猪橋君、どつちへ逃げたものだらう?」

「向島に拙者が懇意の者があるから一先づそれへ行かう、其處なら三日や四日は知れる氣遣ひはない只途中が心配だ」

「それぢやこれから山谷堀へ行つて、馴染の船宿から船を出させよう」

と、出掛けることになつたが、民次郎はお蝶に未練が殘る。

「ヤイお蝶、落ち着いたら迎ひをよこすから氣の毒だが貴樣はそれ迄此處で辛抱してゐろよ」

と云つて後ろ手の齒柱に縛り付けた。

兩人は出て行つてしまつた。

お蝶は危ふく虎口をのがれてホッとしたが、それと共に左文治のことが堪らなく心配になつた。

上野の方から遠く小銃の音が聞こえるのが急に恐ろしいもののやうに感じられた。

(鐵砲で擊たれたといつたが本當だらうか?)

かうしてお蝶は獨りで身もだえしてゐる處へ、雅之助が表から飛び込んで來た。

雅之助はドカ〱と入つて來て家の中を一間々々搜して來ると女が

沿海州を見事乘切り 大漁の凱歌高く揚る
集團、出漁船清津に歸港

【清津にて森特派員發】沿海州漁業監視船照風丸を先頭に集團出漁船は沿海七日、重い責任を果して卅一日午後三時無事清津港に歸港した、危險を冒して三月中に集團出漁した漁船は十七隻延べて卅餘隻、好天候に惠まれて何れも平均千箱に餘る漁獲を擧げ拿捕の危險を見事のり切つて凱歌は高々と大漁の旗にあがつた（寫眞＝照風丸）

天候回復を待ち再出動

【アスコルド沖にて森特派員發】沿海州沖に集團出漁した咸北鮮魚漁船隊は數十隻の素晴らしい風に惠まれ、苦しめられた濃霧も北端、飛行機の威嚇もなく來る船も來る船も大漁をあげ、嶮惡な空氣をよそにいづれも漁獲の大漁をあげた、卅日は低氣壓の通過により俄然ものすごい時化となつたが身を以て祖國の權益を守らんと覺悟の上平氣で操業をつゞけ漁船は九隻に上つた、夕闇迫るころ二潮を衝いて海上に折柄の靄の霧を破つて幻のやうに姿を現はしたソ聯大型警備船があつたが異狀なく監視船照風丸、北鵬丸は卅一日一齊清津に歸つた、そして天候の回復を待つて再び出動の待機中である

京釜本線不通
南省峴驛で兩特急とも脱線
旅客には異狀なし

【釜山電話】一日午前六時五十分釜山驛發特急"あかつき"が午前八時廿分頃南省峴驛第一號轉轍機を通過の際、後部連結の二等車及び一等展望車の二輛が脱線、これがため同線で脱線車二輛が解き放して旅客全部を三等車に移し廿四分遲延して運行を繼續したが、引續いて九時廿分頃、特急"のぞみ"午前七時三十分釜山棧橋發が同箇所で上り本線に向つて進行中機關車脱線、上下線に支障を起したために急に列車運行不能となり上下線とも不通となつた、釜山鐵道事務所では直ちに救援列車を仕立てゝ現場に急行せしめ、復舊に努めて居るが、旅客及び乘務員には何れも異狀なし

こんな時にこそ お國のお役に！
裝身具を おばあさん獻納

退藏金献納の聲にこだまして「お國の役に立つならば年寄りに何んの飾りがいりませう」と金釵、指輪、帽子飾等の裝身具をスッカリ投出して「砲彈でも彈丸でも造つて下さい」と愛國の赤誠を獻品に籠めて、卅一日午前十時ごろ西大門署を訪れた愛國婆さんがあつた

この愛國老婦人は、京城府西大門町三ノ二五〇ノ一七新設商金順梅氏の母、韓一分さん(六三)で、今は亡き夫との結婚記念の金製の指輪、長男金順梅氏から買つてもらつた防寒帽の金かざり等裝身具を献納したもので、韓一分さんを自宅に訪へば

息子の話に依りますと支那事變が始まつてから日本では澤山の金が必要ださうですが、こんな時にお國のお役に立たなかつたら、こんな嬉しいことはありません

人の寫眞をみせてゐた（寫眞＝韓一分さん）

京城鑛專官制
けふ待望の公布
敷地も孔德里に決定

新たなる感激をもつて第一回の教育令改正記念日を迎へた本府では、この意義深い四月一日をトし京城鑛山専門學校官制を公布、京畿道揚州郡孔德里に官立京城鑛山専門學校が新設することに決定した新校舍竣工まで暫定京城高工校を借用するが、開校式は近く内地から初代校長の赴任をまつて擧行、新鑛山専門學校に入學する學生は採鑛科五十名、冶金科八十名、この外に一ケ年修業の……

朝鮮南洋間航空便

朝鮮から南洋諸島宛航空郵便は東京まで飛行機で、それより船便によつてゐたが、四月一日から東京——パラオ間に航空郵便……

山奥の一軒屋で 三人絞殺さる
犯人は同家の雇人か

【釜山電話】卅一日午後一時頃慶南昌原郡井村面官風里の井村所から一里の山奥の一軒屋、家族が仕事から歸宅したが、家族が見えぬので探し廻つた結果留守居の三人共何者かに絞殺……

それ見ろ危い
無免許運轉手が電車と衝突

高句麗の壁畫 模寫など陳列
德壽宮美術館に

明大未來の記者を募集

京城鐵道初等校 長並視學異動

けふ學期初め

谷口前眞大將重體

不德漢訓導に 懲役十月求刑

增税實施の第一日
商品券の印紙税引上げ

いよ〳〵今明日!!!
川畑文子公演會
京城府民館で午後七時開演
主催 川畑文子後援會
後援 京城日報社

よーい、ドン
張切る白衣の勇士
運動會を開く

近代的な一鳥直場

正札を檢査
本町署經濟警察

鷄三百羽 豆を 寄す

漢江川の 奇蹟

スリ廻る二少年

友邦のお友達から來た雛子
小學校や少年赤十字に配る

皆さん御用心!
すでに四月馬鹿はすんだけふ
京城驛に拾ふ一話題

滿洲郵政總局長一行けふ內地へ

津浦線全通

一日朝の天氣概況

天氣豫報

仁川の潮時

柳生旅日記 [118]

小金井蘆洲 演
若槻六郎 繪

松影無妙の劍

柳生十兵衛と聞らざまに名乗ると、件の用人はハッとした様子で
「何と御座る。但馬守御子息十兵衛……然らば兼て承はつた其許が柳生先生、よくこそお訪ね下さつた。御尊父には毎度お目に罷つて御懇意にいたしました」
「手前の父を御存知といふ其許様は……一體何れのお方でござる」
「手前はこの山中に永らく籠居いたしまする、申すも愚諸がましい次第だが、我等の父は曾て故國大友左近将監に仕へた山本對馬守と申し、拙者はその伜山本覺東司と申す者でござる」
思はず膝を打つた十兵衛先生
「ヨ、は種々觀其から御尚名を承はつてゐる。其許様が山本覺東司殿。イヤ不思議な所で御意得ました。何と一本お手合せが願ひたいが如何でござる」
「それは我等から望むところ。然らば、手御指南に預るでござらう」
と、茲で兩人竹刀を取つて、ヒラリと庭へ立出でまする。一面の白雪が降り積んでをりますが、二人共冷たいも寒いもそんな事に厭ひません。禪衛が充分の支度を遊ばして十兵衛先生、續いて山本覺東司。積れる雪の眞只中に左右に別れて位取りをいたし、エイ、ヤツ、ヅリ〈 ッと双方進み、ヤッと喚いて打込む十兵衛先生の竹刀、心得たりと覺東司受流し〈 、今度は一喝叫んで山本が打込む竹刀、きしつたりと、撥これを拂ひ。一上一下上段下段と暫くの間打合つてをりましたが、やがてポーンと左右に飛開いた兩人、互に
「參つた」
「參つた」
[illegible]
「イヤ〈 、恐れ入つた十兵衛先生のお腕前、覺東司などの遠く及ぶ所ではござらん」
「イヤ、それは手前の申す事。我等は斯くの通りビッショリ汗をかいたが、貴許は更に汗ばんだ様子もない。さすがは御老練のお腕前、まだ十兵衛若年にして遠く及ばぬところでござる」
「へ、ア、それにお氣がつかれたか、然らば十兵衛殿、甚だ失禮でござるが、一手御傳授致さうか……」
「天下の名人十兵衛殿へ御指南など、は甚だ恐れ入つた次第だが、御差し障りなくば御傳授を……」
「固より望むところ。立派どころの次第ではない。どうか是非……所は宜しく御傳授を願ひたい」
「然らば十兵衛先生、山本の家に傳はる松影無妙の劍といふのを二手、失禮ながら御傳授いたすでござらう」
「イヤそれは願つてもない幸ひでござる」
と殊の外のお喜び、茲で覺東司が十兵衛先生へ極意の一手を傳授しました。後に柳生先生のお執持でこの覺東司といふ人は尾張大納言殿へ召抱へられ、尾州殿御指南役になつたのはこの縁故からでございまして、それから七日ばかり十兵衛先生は覺東司の許へお泊りになりました。
お話分れて此方は高田の出張所稻荷屋といふ宿屋の亭主。止めるのも肯かずに立出た柳生先生が、其日の夕方になつても歸りません。からさア心配しました。翌日になつてもまだ戻りませんから、もう捨てゝはおけない。人を頼んで其處此處と段々探ねましたが、どうしても行先が分りません。さアどうも非常な心配で
(こんな事と知つたら、押しても止めるのであつたに。間違ひでなければいゝが。どうも今以てトンと手掛りがないところを見ると、或に依つたら吹雪の爲に谷穴へでも落ちて死んでしまつたのではあるまいか……何しろ困つた事が出來した……)
どうしたものかと頭痛に心配をしてをります所へ、一日稻荷屋を訪ねて參りました一人の旅僧。之ぞ別人ならず、前にも一寸お話の出ました品川東海寺の開山澤庵大和尚。十兵衛先生が稻荷屋においでの由を承はつて訪ねて來たのでございます。

金組の貸付限度擴張 實施氣運濃厚化す
農村經濟力膨脹に對處

金融組合の貸出限度の擴張は都市、村落組合を通じて年々熾烈に要望されており、然も金組の預金增は驚異的なものがあり、總額二億二千萬圓を突破、餘裕金も五千萬圓を越へ年許問題に苦んでゐる。一方內地における金融への理解は深まる一方にて、大藏、拓務當局をはじめ、銀行、證券、保險業者も金融債券が一流物として取扱つてゐる、然も今回保險業法の改正により、支拂準備金の運用に金融債券を買入れ得る事となり、又信託業法、貯蓄銀行法も改正機運にあるがこれに際しては法定積立金で金融債券を買入れ得るやう改正するとの意向も明らかにするなど金融今後の資金調達に何等の懸念がない事となつた、一方半島農村の經濟力は膨脹により貸出限度擴張は必至とされてゐる。現在の貸出限度なるものは大正八年乃至昭和四年に決定されたものであつて今日の經濟情勢には適合しない事は本府當局も認めてゐるので、金組では此が擴張を本年中に實現すべく案を練つてゐる、內地信組では非常時の運轉資金を組合員數で割つた金額の十倍乃至十五倍一萬圓から五萬圓を限度としてゐる、滿洲金組でも都市は昨年末三千圓から一萬五千圓に擴張してゐる

朝鮮で現在村落無擔保二百圓、擔保附一千圓、都市無擔保一千圓、擔保附三千圓となつてゐるが、都市の如きは五千圓乃至一萬圓に引上ぐべきものと要望されてゐる

擴張の必要を認む
松本金組聯會長談

松本金融組合聯合會會長は金組貸付金限度擴張につき左の如く語る

當組合の預金は最近非常に增加し殖產銀行への預金が五千萬圓を突破する狀勢となつた、金融債券發行は生命保險業法の改正に依り金融債券を買入れることになつたので資金の心配は無くなつたから貸付限度の擴張をしたいと思つてゐる。本府でも擴張を目下考慮中であるから相當額の擴張を行ふことが出來ると思ふ內地では之れ迄貸付限度は其都市の運用資金總額を組合數で割つた十倍乃至十五倍をかけたもの最高五倍迄即ち二、三萬圓限度に貸付けてゐる滿洲金組の如きは最初三千圓限度のものが現在では一萬五千圓となつてゐる

朝鮮では農村組合が大正八年無擔保が二百圓昭和四年に有擔保が千圓に金組が大正八年に無擔保千圓、大正十年に有擔保三千圓に限度を定められた儘で今迄改正せられてゐないので朝鮮の貸出限度が一番低い譯であるから充分擴張の必要を認める次第である

金山開發會社の創設準備着々進捗

朝鮮金山開發株式會社の創設に就ては日本產金振興會社及び關係各社に於て既に事業目論見書及び定款の作成を了し本府當局の諒解も得てゐるが日本產金會社法中改正があり新會社への投資損失補償關係の點で未解決のものがあるので一時進行を保留してゐる形となり豫定の三月中創立は至難となつたが何れ遠からず決定するものとみられる

失を生じたるときは政府に於て之を補償することに今回改正せられた、其の損失補償規則は別に勅令を以て規定せられるのであるが、直營の金鑛業及び探鑛資金融通に付ての損失補償の外に特に中小產金業者に對する探鑛資金の融通又は中小產金業者が有する金山探鑛の受託を營むを以て目的とする會社の設立を命じたる場合の損失補償に付ても考慮を要するので目下日本產金振興會社と政府當局と折衝中である

▲金資金特別會計法中改正　同法改正及び日本產金振興株式會社法改正に依り日本產金振興會社が日本興業銀行を通ぜずして直接金資金特別會計より借入を爲し得ることになつたので會社債發行並びに借入金の場合共低利の資金利用を與へらるゝことになり　從つて此の改正法施行の四月以後になれば朝鮮支社に於ても貸付先に依つては思ひ切つた低利貸出も行はるゝであらうし又從來の小口貸出擴張の外に更に驚くべき超大口貸出が見らるゝであらう

鴨江水電電力料金
滿、鮮下打合せ

鴨綠江水電々力料金決定に關する下打合會はこの程滿洲國側の始關電氣課長、齋木金融司長外數氏の來城により本府遞信局に於て協議を重ね大體料金決定の基礎となるべき料金算定方法を內定するに至つたが、滿洲國側では定時不定時の料金の分け方に就て留保し歸任したので四月末日再び滿洲國側の意向を取まとめ來城、第二次協議が行はれることゝなつた

支那研究會四日發會式

日滿支ブロックの見地より又大陸兵站基地として朝鮮の對支關係は今後益々重要性を加重して來ることに鑑み對支貿易、關稅、其他各般の諸問題につき研究、支那と檢討研究をなすべく朝鮮商工會議所、京城商工會議所及日滿實業協會朝鮮支部が主體となり之に貿易經營關係者を網羅した支那研究會を設立することゝなり、之が準備中であつたが愈よ來る四日京城商議にて發會式を開催することゝなつた、同會の事務所は京城商議內に置き、特殊問題を研究するための主査、事務處理の幹事、若干名を置き刊行物を發行する他講演會、座談會を開催することゝなつた、しかして最初は朝鮮商議、京城商議の職員を以て會を組織したが今後は更に之を強化する方針である

銀行營業時間 四月より變更

京城組合銀行では四月一日より營業時間を變更し平日は午前九時より午後三時まで、土曜日は午後一時までとする

北支郵政官署の朝鮮簡保業務取扱
四月一日より開始

先般來朝鮮遞信局と中華民國臨時政府郵便總局との間に交涉中であつた協定がこの程成立、差向き北京、天津、青島の三ケ所に限り同地の郵政官署に於て保險料の集金その他各種請求書の受理等左記の事務を取扱ふことゝなり四月一日より實施されることになつた、なほ取扱地域は前記の通り差向き三ケ所としたのであるが、將來は實情に鑑じ漸次これが地域を擴張して行く方針である

一、保險料徵收
二、保險申込書及び復活申込書の受理
三、保險金支拂請求書の受理
四、各種現金の拂渡
五、保險料拂込方法變更、請求書製所住所の變更屆書の受理
六、拂込猶豫又は拂込廢止請求書の受理
七、保險料領收帳、保險金又は還付金支拂通知書及び貸付通知書の再發行請求書の受理
八、死亡通知書の受理

北支方面に於ける在住邦人は最近急激に增加しつゝあるが、これらの邦人中に朝鮮簡易生命保險に加入せるものも多數に上つてゐるが現在これら北支在住者が保險料等の拂込をなさんとする場合は銀行爲替日華郵便爲替による外方法なく非常に不便を來してゐるので

十四年度總督府命令航路補助
總額九十七萬三千圓

遞信局では昭和十四年度本府命令航路を一日つぎのやうに發表した補助總額は九十七萬三千圓で昨年より七千圓減額されてゐる、主なる施設改善事項は

一、西鮮天津線を更に一隻增配したこと
二、西鮮青島線に一隻增配したこと
三、多獅島港に對し各季節といへども西鮮東京線の月に二回定期線を確保したこと
四、仁川、芝罘、大連線を營口に延長させたこと
五、朝鮮北海道大連線の一部寄港地整備を行ひ航海回數を增加したこと、航海線路及受命者つぎの通り

朝鮮郵船株式會社
北鮮—敦賀線 年二四回
北鮮—東京線 年一〇三回
西鮮—東京線 年五六回
南鮮—長崎—大連線 年三三回
北鮮—新潟線 年二四回
朝鮮—上海線 年三三回
西鮮—青島線 年七二回

[illegible]汽船株式會社
朝鮮—北海道—大連線 年三三回
北鮮—北海道線 年一八回

九州郵船株式會社
釜山—博多線 年一八〇回

川崎汽船株式會社
麗水—下關線 年一八〇回

阿波國共同株式會社
西鮮—天津線 年九〇回
仁川—芝罘—大連線 年三六回

朝鮮汽船株式會社
釜山—鬱陵島線 年四八回
木浦—濟州島線 年三四八回

朝鮮鴨綠江航運會社
新義州—中江鎮線 年一〇〇回

鴨綠江輪船公司
新義州—新滿州坡鎮線 年八五回

南洋海運株式會社
日本—ハワイ線（釜山寄港） 年一二回

日本郵船株式會社
日本—ハンブルグ線（釜山寄港） 年一三回

大阪商船株式會社
日本—カルカッタ線（釜山寄港） 年一二回
橫濱—天津線（釜山寄港） 年一五回

家具武道具商工業組合結成

京城商議商工相談所斡旋により京城家具商及武道具商の各業者は工業組合を結成すべく準備中であつたが來る四日家具六日武道具と夫々創立總會を午後二時より京城商議會議室にて開催する

金增產に拍車
日本產金會社法改正

日本產金振興株式會社法中改正、金資金特別會計法中改正の二件が決定したが之れによつて金增產に益々拍車をかけることゝならう、即ち

▲日本產金振興株式會社法中改正　同法第二十條に依り政府は日本產金振興會社に對して產金事業の振興上必要なる命令を爲すことを得ることになつてゐるが其の場合に著し之に因つて損

甘物出荷規約改正

【木浦支社】務安郡農會では兼ねて押海面に甘物の生產增殖及栽培改良を圖り販賣を斡旋する爲め甘物出荷組合を組織、從來は西瓜のみに限られたが今般規約を改正し甘物一切に亘つて生產の指導販賣の斡旋を行ふ

鑛山用機器類の配給組合を結成
四月下旬創立總會

朝鮮に於ける鑛山用機械器具類の統一、配給の圓滑、資材の一括購入を目的とする朝鮮鑛山用機械器具配給組合の結成に就ては產金會社で組合契約案の作成を了し目下本府に提出、指令を待つてゐるので指令あり次第同業者の加入を勸誘し四月下旬までに創立總會を開催することとなつた

上海に印棉の輸入旺盛

上海に於ける印棉の輸入は八、九年前の一九三〇年及び三一年頃までは支那棉花の需要未だ發達せざりしため約六十萬俵の輸入を見てゐたが一九三五年三六年頃より棉田增加と豐作のため漸減し十萬俵內外となり一九三七年には日支事變勃發のため二萬俵に激減したが最近に至り棉紡及び軍用織の買付け等により上海紡績工場は中支產の原棉のみでは運營不可能となつたので多量の外棉を主として印度棉の買付けを行ひ昨年十一月以來本年二月末までに十萬俵の輸入を爲し漸次增加の趨勢であるから本年度の印棉上海輸入は一九三〇年當時の六十萬俵位に達するものと見られてゐる、尚ほ印棉買付先にボムベイ、カラチを主とし其他ツチコリン、コロンボ、カルカッタ、ラングーン、マドラ等である

船舶、鑛業の讓渡に臨時利得稅賦課
四月一日より實施

船舶及び鑛業の讓渡に對しては百分の二十三の臨時利得稅がかゝることゝなつた、即ち朝鮮臨時利得稅令改正の件は制令第四號（卅一日附官報號外を）以て公布され、四月一日より實施される事に決定し法人の臨時利得稅に就ては十四年一月一日以後に終了する事業年度分より、個人の普通利得に對しては十四年分より、讓渡利得に對しては十四年一月一日以後の讓渡に遡及して本令を適用することゝなつた、改正令の要點は

一、從來の事變利得に對する臨時利得を普通利得と稱することゝし新に加へた船舶（建造中を含む）又は鑛業に關する權利若は設備の讓渡に因る個人の利得に課稅し之を讓渡利得と稱することゝなつた
二、讓渡利得稅は利得金額より二千圓を控除したものを課稅標準とする
三、個人の臨時利得稅は普通利得（利得金額の百分の十八）讓渡利得（百分の廿三）の稅率で賦課される
四、十四年一月一日以降に於ける原始取得に對しては讓渡利得の適用をなくし探鑛、鑛業開發の獎勵趣旨に副ふるにしてゐる
五、昭和十一年十二月三十一日以前に取得したものに就ては同日に於ける價格を以て取得價格とする
六、讓渡利得稅は普通利得に對するものと目標在所地課稅主義を執つてゐる

等が主要點となつて居り內地の讓渡利得百分の二十五に對し朝鮮は百分の二だけ輕減されて居り、これが歲入豫定額は九十萬圓を見込んでゐる

鮮內預金利下げ機運著しく促進
甲乙の利鞘は三厘か

鮮銀は保證準備の擴張を機として公定歩合を夫々二厘方引下げ公債の消化と生產力擴充資金の疎通を目標に低金利の趨勢に拍車をかけることゝなつたが諸般金利の引下げは必然的に實行金利の引下を促進することゝなり、これに追隨して鮮內の金利も總じて全面的に低下の趨勢に置かれることゝなつた、即ちこれによつて、最も直接的の影響を受けるのは預金々利の引下げ機運であるが鮮內の預金金利は過般の地方金利調整によつて高率金利の是正を見たとはいへ貸出金利の先驅的低下は金融機關の擴大下に於いて各銀行の逆鞘を生みつゝあるので今回の鮮銀の公定金利引下げによつてその利下げは著しく促進されるに至るべくその時期も案外遠いのではないかと見られる、而して鮮內の預金々利は現在甲種二分六厘、乙種四分一厘であるが少くとも甲二分五厘　乙三分八厘程度に引下げを見て然るべきものといはれてゐる、即ち甲乙の利鞘は現在五厘であるが金融界の實情にこれを縮少すべきであるとして居り實現を期待されてゐる

朝鮮電力總會

朝鮮電力八回定時總會は三月卅一日午後一時より南鮮合同本社で開催、全部議決草案を附議異議なく可決した利益金處分左の通り

當期純益金	四一三、一六四圓
前期繰越金	四二、七八六
この處分	
法定準備金	二一、〇〇〇
株主配當金（年一割二分五厘）	三七五、〇〇〇
後期繰越金	五九、九五〇

資材配給不圓滑で各私鐵開通遲延
營業開始は七、八月

鮮內に於ける現在建設途上にある私鐵は何れも地下資源開發並に生產力擴充計畫上その急速なる完成を緊要視され、內地の私鐵とは特殊的事情の見地から特別の資材配給が考慮され、明四月一日から端豐、三陟、平北、京春、西鮮、中央の各鐵は一齊に開通の豫定となつてゐたが資材需給の不圓滑と各種工事の殷盛に禍されて、夫供給に著しき支障を來し何れも豫定工程の進捗を期し難く、開通の豫定を變更するの準備に立ち至つてゐる、しかも豫定のみは昨夏の水害擴大のため復舊工事に忙殺された形である。西鮮、中央、京春は一部地質の險惡が主なる難工遲延の原因となつてゐる、尚之等の私鐵は輸送機關の車輛に營業開始に差支へない程度に購入流となつてゐるが本格的營業開始は西鮮中央、平北兩鐵道の四月下旬となる外は全面的に七、八月頃の豫定である

朝鮮マグネ專務

朝鮮マグネサイト會社の專務として入るべき東拓代表者は支社金融課長佐藤寶氏に內定した模樣である、同氏は一旦總裁席附となり休職のまゝ朝鮮マグネ入をなすはずである

產米增殖計畫
各道で實施打合會
四月四日より本府係官を特派

本府農林局では產米增殖計畫を確立せしめ以て各道に於ける增殖實施具體案を樹立させることゝなり四月四日を皮切りに各道に於て產米計畫實施打合會を開催、本府から係官を特派することゝなつた、開催日程並に係官出張割當左の如し

▲忠北、五日より八日まで道廳で開催、大谷技師、松野技手出席
▲忠南、五日より十日まで[illegible]、論山で開催、大谷技師、松野技手出席
▲全北、十日、十一日、道廳で開催、伊東技師出席
▲全南、六日道廳で開催、山根技手出席
▲慶北、九日道廳で開催、伊東技師出席
▲慶南、五日より八日まで道廳で開催、伊東技師出席
▲黃海、十日、十五日の兩日道廳で開催、山本技師山根技手出席
▲平南、八日道廳で開催、山本技師、山根技手出席
▲平北、四日道廳で開催、細見事務官、吉田技手出席
▲江原、四日より八日まで洪川、鐵原、江陵で開催、粟代技師、山根技手出席
▲咸南、九、十の兩日咸興、元山で開催、粟代技師出席
▲咸北、未決定
▲京畿道四月五日より八日まで利川、議政府、長湍、[illegible]で開催、吉田技手出席

株式 日魯高を好感 反動高歩調

前場　前日後場から戾り止の調を遁つて强調に大引せる氣先所南洋島を含滿統治下に置く旨を公表せるも刺戟とならず平凡の寄合を入れて當所も期近不申大新不申前東一二三圓丁と二安滿等七二高丁と二高鐘紡不申鐘新七四圓丁と二高と諸株商調の平凡無味に始まりあとも平調となつたが中年より漁業問題の好轉摸樣を好感せる日魯の新高値買進みを入れてこれを刺戟して活潑な騰勢止の調を展開三圓方を拔き三圓五と買進まれあとも益々强調を追り結局朝新二…

健設株買はる

大陸への建設景氣に煽られて在鮮紡の買氣は依然として獨自の情勢を續け日紡紡東洋紡は配當落ちに拘はらず一圓から二圓高と買進まれその他滿洲物にも注意は絶えず滿洲煙草の五、六十錢高が目立つてゐた、更に暫く平酷を保つてゐた日魯漁業が再び一圓方買進まれて對ソ漁業關係が不透明にある際とて大方の注目を惹き、新東の反騰高を助長せしめてゐた模樣であつた斯様に材料含みの諸株には極めて穩健な買氣が注がれてゐる事は雜株の先往高を展開する餘地が出來てゐるものとして樂觀され玄人筋の小型株いぢりも底緻視される一面、全面的な買氣展開の下地が充分にあるとをうなづかしむるものとして受取られてゐた樣だ

一般に堅り 現株市況

期米 順鞘發會後軟調

新甫前進觀

株式利廻表

配當落諸株

配當落鮮內株

拂込株一括

各地正米市況

京城綿布仲值

一般商品市況

京日卸賣物價

社説

鮮銀利下の示唆

金利平準化の推進力

朝鮮銀行は朝鮮の一途にある半島經濟の實情に照應し、金融の協贊を經て保證準備發行高を現在より六千萬圓增加する事となり五月一日の總會に於ては正式決定をみる筈である。生産力擴充に、資源の開發に、北支經濟圈との存在が確認され、相互に相俟つて各方面の建設が企圖、實施されつゝある實狀からみる限り、この鮮銀の保證準備增加は當然の措置であり、且つは半島金融の圓滑なる運用を期する上に大きな作用をなすものなるは今更ら云ふまでもない。而して之により、鮮銀は中央銀行としての機能を完全に發揮することゝなり、經濟發達上の半島經濟界の進行はこゝに鮮銀中心の金融動脈を完成する正しき軌道に乘せられたものと解すべきである。

◇

この重大なる轉機に際し、鮮銀は四月一日より貸出標準金利の一厘乃至二厘引下を斷行した。而に時に機を捉へたるものと謂ふべく、金融界のみならず廣く財界に與ふるところの影響は大きく、多大の好感をもつて迎へられてゐる。而して既に貸行金利において一流ものは既に先走つて實行されてゐるのであつて、金融界への影響は大したものでは[illegible]ないと謂へるであらうが、之は過去に於ける鮮銀の行き方とは異なり、所謂本道に立返つたのであつて、この職能發揮に期待するは頗る大である。

◇

[illegible]金利平準化に決定的な影響を與へたものである。金利平準化に對しては、今後も積極方針の下に進む方針であると今後の方向を明らかにしてゐるから、次に來るものは預金利子の引下げである。その時期は金融界の情勢に鑑み案外早く、實現される事になりはしないかと思はれる。かくて半島の金利平準化に推進されるのであつて、之が建設途上の半島經濟界へ寄與するところは頗る大きく、將來鮮銀が本來の大使命に立脚して金融指導に任ぜん事を期待する。

[illegible]しかして、鮮銀は自らその強化を圖ると共に、中央銀行としての職能發揮に[illegible]する機構であつて、何等の支障なく[illegible]行はれるものなるを信ずる。

汪精衞・更に和平聲明

最高機關の討議を經て 余の主張は決定

【香港一日同盟】汪精衞の重慶脫出以來終始行動を共にし和平派要人中重きをなしてゐた汪派唯一の股肱の臣、曾仲鳴が抗日派のテロ犧牲となつて汪の身邊を血に染め殪れてより茲に旬日蔣一派のテロ行爲に對する汪精衞の態度は内外より注目されてゐたが三月廿八日附汪精衞は曾仲鳴暗殺事件に關する聲明を廿一日夜半發表し、蔣介石との交渉經緯を詳細に述べ兇手に倒れた曾仲鳴の死を悼み飽く迄も初志貫徹に邁進する悲壯な決意を闡明した聲明全文は左の如し【寫眞は汪精衞】

曾仲鳴先生正に臨終に際して耶重且つ愼重に次の二句を洩した「國事は汪精衞にあり家事は我が妻にある、今や余なんら心配すべき要なし」と、曾先生の國事に對する主張は我等と全く同じである、曾先生の死は國事の主張のために死し又死に臨んでは國事において余と全く同樣の主張をなしこれを認識して遂に逝つた、彼にならはもう一息の餘命あらば余は死に臨める友朋を慰め、余の念じたるところを彼の欲するところにしたかつた

余は

これに關しその最大の努力を盡しもつてその主張の實現を期せんとするものである、この主張の實現こそは國家民族生存のかゝるところであるからである、余は既に去る十二月二十九日和平建議通電をもつて和平を主張した、和平の主張は即ち國人の主張であり余一人の主張ではない、これこそ最高機關の討論を經て決定した主張である、この事實が證明するものは數千となくある、今茲にその一つの例を擧げたい

國防

最高會議第五十四次

剛統院會議

時間・民國二十六年十二月六日午前九時

地點 漢口中央銀行

出席者 于右任、居正、孔祥熙、何應欽

列席者 陳果夫、陳布雷、徐堪、徐謨翁、文灝、邵力子、陳立夫、董顯光主席、汪精衞、秘書長張群、秘書主任曾仲鳴、右會議における外交部次長の報告次の通り

ドイツ駐支大使トラウトマンは前月二十八日本國政府の訓令により孔祥熙院長を訪問、二十九日蔣委員長を訪問し本國政府の訓令によるものとして次の如き申出でがあつた

即ち

ドイツ駐日大使は日本外務省を訪問、日本政府は果して現在の局面を終結する意思ありや又意思ありとせば如何なる條件の下に終結せんとするかを質問したに対して日本政府は左の如き條件を示し、且つこれを中國政府當局に傳へんことを希望した、右條件は大體次の通り

一、內蒙の自治

二、北支駐兵區域を擴大すべきこと

排し北支行政權は全部中央に屬することを希望することは將來抗日人物を以て北支政權の最高首領とせざること、但し現在においても若し和平締結をなすにおいては若條件で可なるも將來において北支新政權を成立せしめる意思はない、現在談判中の礦山問題については依然繼續してこの問題解決に當るであらう

三、上海停戰區域を擴大せしむべきこと

而して擴大の程度方法については日本側は未だ具體的表示をしてゐないが、上海行政權は元のまゝ存續せしむべきこと

四、排日問題については昨年張群部長と川越大使との會談において表示した方針に準據して處理せられたい

五、貿易問題

日本側はこの問題に關して相當

六、關稅改善問題

七、中國政府は外人の中國における權利を尊重するを要する

トラウトマン大使は孔院長及び外交部長と會談後、蔣委員長と會見した右旨の希望を表示し直ちにこの旨電訓した所蔣委員長は即トラウトマン大使と懇談すべき表示があつたので、余はトラウトマン大使に從つて南京に赴いた、その船中トラウトマン大使と個人的に種々話し合つたがその際

獨の和平調停を 蔣一日受諾

そこで蔣委員長は停戰すべきやについて徐永昌の意見を求めたところ蔣は即答し得ず、改めて高級將領の意見を徵したところ、「若しこれだけの條件であれば何のために戰爭してゐるのか」と言つた、余は之に對しドイツ大使の調停する所は、この數條の條件に過ぎない、委員長はそこで又今一度意見を確めた所、[illegible]

使は次の如き言葉を洩した、中國の日本に對する今日までの抵抗振りで中國の抗戰精神は既に十分表示されてゐる、今はもうそろそろ結末をつけるべき時機ではないかと思ふ、ヨーロッパ大戰當時ドイツは幾度か媾和すべき好機があつたにも拘らず

自己

の力量を自信するの餘り敢へて媾和を肯んぜず、その結果はベルサイユ條約に調印し戰勝國側が提示せる條件を無條件で受け容れねばならなかつた、大使は又ヒトラー總統の意見を引用して日本の條件は必ずしも苛酷でないと言ふ意を述べ中國の考慮を勸誘した、かくて十二月二日南京に到着、先づ余が蔣委員長は愼重に熟慮したる後余に對し「在京各高級將領と一應相談する必要がある」と述べた

午後

四時に至つて再び赴いて見ると既に顧祝同、白崇禧、徐永昌などが集つてゐ[illegible]

ぱもう「一言加へさせて頂きたい」と蔣委員長の諒解を求め「中國政府は現實に餘り過ぎた要求をなさず、この所、我が張り通さぬ方がよいであらう」と述べた、蔣委員長は「それは同じ事である」と語つた、次いで曰く「現在のやうに戰爭が激しく行はれつゝある最中に調停など成功するはずはないのであるから、ドイツが先づ日本に對し停戰を慫慂してくれることを希望する」

ドイツ大使は「蔣委員長の擧げた二點は本國に傳達するであらう、ドイツは勿論調停を望むと共に、日本の希望する所も亦ヒトラー總統に通じ日支双方が先づ停戰を行はんことを申出づるものである」と述べた、蔣委員長は之に對し次の如く述べた、若し日本が自らを以て戰勝國となし、且つ又宣傳をなして中國が既に各項の條件を承認したりとなすが如き事あらば更に談判することは出來ない

この

際に於てトラウトマン大使は

今次の會談の結果は甚だ有望であると語り又同大使は南京に於て蔣委員長に

この條件は決して最後的通牒でないと述べた、しかして同大使は船中で東京及びベルリンに打電したが今日に至るまで返答はない、その後の發展如何は知る事が出來ない、余はさきに十二月二十八日國防最高會議に宛てた書翰で次の如く述べた

昨年十二月六日南京がまだ陷落せざる以前にドイツ大使が蔣委員長と會見した時に述べた日本側の條件は、かくの如き明瞭なものではなく、又之に比ぶれば苛酷であつた

然も

なほ蔣委員長は大局を看過し毅然として和平存立について考へてゐた、これらの事實はまた過去には屬せず國防を衞るための秘密を嚴守する必要がある、但しドイツ大使の調停は既に過去の事に屬し之を公表しても差支へないので一箇の例としたものである

てにしがたい、但し將人とドイツとは友好關係にあり從つてドイツが斯の如く調停に盡力してくれる事については元よりその誠意を信じてをるし、又ドイツが調停に立たうとする行爲に對しては感謝する次第である、然しこれら各項の條件をもつて萬般の基礎とし且つその範圍を定めんとするに當つては大使閣下において特に

獨逸

本國政府に報告して戴きたい點が二つある、これは一、日支談判に當つてドイツは終始調停者である事を要する、換言すればドイツはあくまで仲裁者として徹底して貰ひたい事二、北支における行政の全權は徹頭徹尾維持されねばならぬ事の二點これである、この範圍内に於いてならば これら條件をもつて萬般の 基礎と してもよいつまり日本が戰捷國の態度を以て臨み、この條件を以て最後通牒となすといふことが不可なので

日支戰へば傷つき 和すれば共存

茲に於て以下三箇の疑問が出るのである

一、ドイツ大使の提案と近衞聲明とを比較するに、ドイツ大使の提案は和平を本來の基礎とすべしと言ひながら、なぜ

近衞

聲明はそれを基礎としないのであるか

二、ドイツ大使が奔走した當時は南京は未だ陷落してゐなかつた然るに近衞聲明の當時は南京は陷落し濟南、徐州、開封、安慶、九江、廣州、武漢何れも相次いで陷落した後の事であり、長沙は未だ陷落してをらないが自ら火を放つて焦土と化してゐた、蔣は前の場合には和平の途を進むと言ひながら、後の場合にはそれを不可とした理由は何處にあるか

三、ドイツ大使奔走當時國防最高會議の人々は或は南京、或は

武漢

に於て何れも掌を一にして和平に贊意を表明した、然るに近衞聲明の場合には和平を續つて論議對立し、遂には反對的立場にある者に對しては罵言、讒謗を逞うし、然も之を以て足れりとせず、遂にその生命を奪ひ國家のため力を盡す能はざらしむるに至つた

以上三つの疑問に對して余は回答するものでない、排し和戰の大方針に關しては重ねて國民に一言せざるを得ない、人

或は

「既に主戰の方針を持してゐる」以上和平論に移れない」といふかも知れないが、これは獨立國の目的は生存獨立にあり和戰はこの目的を達せんがための手段に過ぎない、戰はざるを得ざるに至つて戰ひ、和すべきに至つて和する、和戰の途はその條件によつて決すべく、各條件によつて國家の生存獨立を妨げるならば和すべからず、然らざれば和すべきである、又「中國は抗戰によつてこそ統一を達成すべく、今和を唱へるならば國家は又分裂の他なし」といふ人もあるが

自分

はこの說には絶對反對である、國家の生存獨立のために抗戰をするならば別であるが、他意なく統一手段として抗戰するのであるならば自分は絶對に反對である、和を主張することは國家統一を妨げるものでなく、和平反對必ずしも分裂を防ぐものでない、又一說には「今和平を論ずることは共產黨の攪亂に機會を與へることだ」と論ずる者もあるが

共産

黨の攪亂政策は本來

のもので和戰何れの場合でも一貫してゐる、若し和平時代にこの共產黨の策謀が表面化するといふのであれば、今こそ共產黨の行動を說服するの好時機と言はなければならない、又一說には「第三國關係が中國の和平を希望しない」との說をなす者もある、外交は須らく自主的であり、中國は自己の國家民族の生存のため和戰何れをとるかについては自分で決定すべきであり

他國

の立場を考慮する必要はない、日清戰爭後馬關的媾和がその後の我が國にとつて苦難を釀らした故、我が國は必ず一時的媾和を顧はない、同時に普佛戰爭後フランスは屈辱的媾和をなし、その後ヨーロッパ大戰に至つてその仇を打つて大いに得意になつたが、我々は齊しくかゝる一時的媾和を謀ふものではない、斯の如き停止する事を知らざる循環的報復は決して永久和平の道ではない、

余が

誠心誠意を以て求める所は東亞百年の大計であつて、余は日支兩國は相戰へば即ち兩者とも傷つき、兩國平和すれば即ち共存することは明々白々であることを斷定して疑はない、兩國が和平のために俱に努力すれば必ずや東亞百年の安定を見ることを得るであらうが、然らざれば兩者ともに傷つき齊しく滅亡するであらう(中略)

和平

建議の第一番の犧牲者曾仲鳴先生は既に自己の鮮血を以て、我國が遵守すべき共同共存共同發達の態度を示されたのである、最後の論議せんとするのは次の諸事實である

一、二月中旬に重慶政府は中央委員某君を派遣して余に旅券を與へ出國せしめんとした時、余は彼に次の如き意見を託した

一、余が重慶を離れ通電を發することが不可能であつたのである、しかしこの苦痛の中に留つて重慶を離れたことは實に心苦しいことである、どうして再び離れることが出來ようか、余が出國をよくしたのは知る余の主張が容れられることを要求する所以を說明するためであつて

決し

て個人などの問題としてゐるのではない

二、余の聞くところでは、國民政府はさきに國際協定促進に努力して居る由である、少くとも國際協定と直接交渉を同時に並行せしめんとするのであれば、余も在野の身なりと雖も側面から協力援助を與へるに努力を惜しむものではない

三、若し國民政府が終始決意を下し得ず、この局面を徒らに遷延し求めるに委するならば余は一旦國を離れたと雖も赤誠より出るの外はない

東亞永遠の平和 かくして來らん

以上の諸主張が三月二十一日事件の主なる原因を構成して居ることは確實である、曾仲鳴氏は余よりも未だ徹底して居なかつたことは拘らず、惡虐にも逝去した、余はこの弾に倒れたのも時機如何なる時に曾仲鳴氏に續いて兇手に倒れんやも知れぬが、それは余の望むところである、余の死後、國民諸君はよくこれらの余の殘した文字を熟讀玩味して

余の

主張を明瞭に會得して貰ひたい、これが中國の生存と獨立に不可缺の途であると同時に之が世界並に東亞永遠の平和を得るに不可缺の途であるので余の主張は現在において重慶方面の採用するところとなり得ない、しかし將來いつの日か全國人民乃至日支兩國人によつて容れられることがあれば余として本望である

日本發電總會

【東京電話】日本發送電會社創立總會は一日午前九時より工業クラブにて開會、[illegible]創立委員長

職制改正に伴ふ 滿鐵の人事異動

【奉天電話】滿鐵では四月一日から實施される調査部の擴充、[illegible]機構增強、北鮮不定局の新設などで劃期的職制改正が行はれ、之に伴ふ適材適所主義による百七名の人事異動が卅一日發表された、四月一日は滿鐵創立記念日であり、二日は日曜、三日は神武天皇祭で日曜續きの上に異動のためのゴッタ返しで奉天は非常時異動風景を見せてゐる、なほ朝鮮關係者は次の通りである

命鐵道總局旅客課長兼旅館課長 野間口英喜

命營業局貨物課長 諫富鹿四郎

命吉林鐵道局總務課長 [illegible]

命齊哈爾鐵道局長 大槻正巳

命吉林鐵道局總務課 人事係長 中村末夫

命北鮮鐵道事務所[illegible]

蔣・共産黨抑壓に汲々 黨政委員會を新設

北支總局【在北京】にて 藤井特派員發

國共の軋轢が表面化し[illegible]を加へつゝある現狀政府では蔣介石一派の主張により、今回軍事委員會戰地黨政委員會を新設して事務を開始した、その組織內容は

一、總務組──組長程任民

二、黨務組──同李宗黃

三、地與組──同王先生

四、軍事組──同[illegible]

五、政務組──同[illegible]

で同會は各戰區長官司令部に分會を設置し戰區內省政府に辦事處をそれぞれ設置して戰區內の黨政一切の遂行に便ならしめるといふにあり事業方針としては、政治方面においては民衆を組織して國力を增強する對策、經濟方面では戰區內一切の物資を日本側の利用より防ぐ對策、敎育方面では戰區內民衆の愛國心、抗敵心を喚起せしむる對策を研究するといふのであるが、國民黨の一派の共產黨に備へるものと見られ、同委員會の活動は今後國共兩黨の鬪執を愈々深刻化するものと見られてゐる

支那軍大混亂

蔣介石が大軍を集中して死守せんとした南昌も日本軍の手に歸した結果、浙贛線に潰敗せられて江西南部の支那軍は、南京、上海方面への接近が完全に不可能となり西南との交通も絶たれるので蔣頭をうつて我先にと西方に向つて退却中である、一方日本軍が南昌から長沙を攻略し[illegible]に出るものと想像した支那軍は右往左往しつゝ逃げ廻り今や拾收すべからざる大混亂を呈してゐる、かくて某外人軍事專門家も南昌陷落は支那側にとつて致命的であることを認めてゐる

放射線

【奈良】板柳町野宮兼次郎さんの子息(松、竹、梅の三つ兒兄弟)が揃ひも揃つて全甲の優等で二年へ進級した

【新潟】蒲原郡鳥屋野村[illegible]では九百尺[illegible]

【東京】京成電車市川國府臺驛附近で[illegible]一萬圓の[illegible]が埋れてゐるのを發見した、どう處分するか

【神奈川】[illegible]

【愛知】日本ライン河畔の[illegible]

【京都】京都日伊協會で近く日伊食銀連盟、その一部がイタリー政府主宰の日伊文化研究所に當てる

【高知】土佐の名物"鰹"は黑潮の關係で十日位おくれ、この下旬頃が初漁期となるらしい

【愛媛】宇部郡内五十五の製材工場の石油發動機が本格ガスで爆音をあげて燃料の自給自足を圖る

【山口】失戀、厭世!! 下關驛前山陽百貨店屋上から飛降り自殺した男がある

【熊本】宮地町官幣大社阿蘇神社の赤祭は雨がふつたが大にぎはひ田作りの神事も古式によつて莊嚴に執行された

【臺灣】花蓮港廳警察局が、結核癩病の特效藥セラハチンを含む"玉筍つぼら"の積極的栽培に乘出した

【滿洲】白系露人團東州事務局(大連)では、皇軍へ獻金のため"露劇の夕"を開催した

【北支】石家莊の日本小學校で五年生以上の生徒に一週間二時間づつ支那語を敎へる

溪流に沿うて 山腹を辿る快味
興趣盡きぬ春のハイキング
京城近郊案内（5）

圓通庵コース
◇倉洞―牛耳里―圓通庵―牛耳岩―西限―紫雲峰
▲徒歩距離（往復）二三粁所要時間（往復）六時間

△行　程

牛耳里までは牛耳嶺へのびるコースを辿り約十分程行くと五、六戸かたまつた部落がある、この部落の北側に小さい瀑が走つてゐて牛耳嶺から流れてくる溪流と合してゐる、この小さい瀑を瞰つてひたむきに登ると瀑上をたへて稜線になる

無愁洞コース
◇倉洞―無愁洞―圓通庵―牛耳岩―西限―紫雲峰
▲徒歩距離（往復）二〇粁、所要時間（往復）六時間

△行　程

京元街道を北へ約二キロ半程進むと京畿の林にお住はれた無愁洞の松、楓、斉等の樹林に被はれて如何にも深山らしいこの部落から右折し砂川に出て川沿ひの小路を辿つて行く

天竺寺コース
◇倉洞―樓院橋―天竺寺―紫雲峰
▲徒歩距離（往復）二〇粁所要時間（往復）五時間

△行　程

樓院橋を北へ約四粁コンクリート造の樓院橋を渡る邊までは單調な元山街道を辿るがこの橋を渡つて東南の部落から左折すると眼界が一變して道峰山の峭壁は前程に迫り思はずピッチも緊がらせるを得なくなる間もなく栗林に覆はれた道峰里を過ぎ溪流に沿つて延びるだらく上りの坂道を辿るとやがて天竺寺に至る、背後には道峰山の仙人峰の鋭鋒を背負ひ、あたりは深山幽地の感がある、この天竺寺から背後に延びる坂道を辿つて登高、左に折れて山腹を縫ると眼界の開いた砂尾根に出る、行手に道峰山の峭壁がはだかり聳ゆられた感がある、中央に屹立する紫雲峰さして嶺く砂岩根を傳ひ更に數を分けて登るとやがて主峰の西鞍部に到達する

望月寺、道峰山
◇望月寺假驛―望月寺―道峰尾根（往復）―紫雲峰
▲徒歩距離（往復）一〇粁、所要時間六時間

△行　程

望月寺假驛で汽車を乗捨て溪流に沿ふ小路を西に進ると小松、楓等に被はれただらく登りの山路になる、溪流のせゝらぎや、名も知れぬ小鳥の囀りを耳にしつゝ登高を續けるとやがて躑躅と繁つた樹林に入り、行手に望月寺の堂が目につく、最後の五分間急坂を後に背後に連なる山稜目指して松林をくぐり、楢、萩等の繁みを分けて急坂を登ると道峰山の主稜に出る

眼界は急に開けて四位の展望が恣に出來、目指す主峰、紫雲峰の岩塔が荒々しい岩肌を見せて近寄り難い威厳をさへ感ずることからコースを南に採り、雜木の多い隆起を大盤尾根傳ひに辿ると、やがて紫雲峰の西鞍部に出る、望月寺を出て約一時間四十分、途中ギャップの渡りと短い岩場の上りがあるので割に時間がかゝる

五峰コース
◇倉洞―牛耳里―牛耳嶺―五峰―圓通庵―倉洞
▲徒歩距離は往復で三七粁、所要時間一四時間

希望に輝く春光を浴びてラヂオ體操に興ずる白衣の勇士

雜木の多い隆起 岩肌の魅惑

△行　程

倉洞より牛耳嶺、牛耳嶺からは一旦北側の瀑に下り、五峰の最高峰から西南方に押出してゐる砂尾根に取ついて尾根通しにぐんぐん登ると、やがて五峰の東鞍部につく頂上へはこの鞍部から左手へ數を分けて登ると鞍部に到達出來る、頂上からはコースを東方に連なる尾根に採り、約一粁程進むと、道峰山の紫雲峰と牛耳岩に延びる山稜の分岐點に到るこの分岐點から南走する砂尾根を傳ひ牛耳岩西尾根の無名峰に出て左手の數を分けて降ると圓通庵に到る圓通寺からは放牧里を經て約一時間半で倉洞に歸還出來る【寫眞】牛耳里を行く

文部省體操
【東京電話】文部省ではこんど各省に魁けて文部省體操を制定、四月から毎朝省員全部揃つて行ひ、國民體位の向上に乘出した

關東氷上ホッケー
【東京電話】關東アマチュア氷上ホッケー第二日は廿八日午後七時芝浦スケート場で準決勝から開始ホッケースチュア對ホワイトベアーは延長に入り大接戦を演じたがホワイトベアー惜くも敗れ、東京商校對明大アマチュアも準決勝戰にふさはしい激戰の後東京商校に凱歌があがつた

遞信ア倶平壤の 三巴戰展開
京仁間驛傳大會豫想（上）

十四年度半島陸上競技界の序幕戰としていよく三日午前十時本府前を出發する、全朝鮮陸上競技聯盟主催の京城、仁川間往復驛傳競走大會（五十一哩）は今年の技術陣營を總動員して、興亞半島の選手力強い若葉を象徴する陸上の一大レースである

競技の結果を豫想するに、最も有力な優勝圏内のチームは何んといつても遞信、平壤、京城ア倶、鐵道の四チームで、白光倶、白虎倶、仁川、徽文等のチームは圏外へ遙かに拋り出されてゐる、優勝圏内に入つてゐる四チームの中でも前回四時間五七分五六秒で優勝した鐵道チームは

去年の陸上ラスト走者井村輔君が晴れの入營で出場を見られず僅かに半島の華、早大選手の宮崎君一人の三選手をもつてチームを支へてゐる程度に鐵道の強剛ともいへるチームメンバーの平均した力強さに缺けてゐる、かうなれば、朝倉を先陣に立てた遞信、猛將柳を擁する京城ア倶、お寮文元善を誇みとする新鋭平壤の三チームがチームの内容においても強く、そしてムラのない最優秀なチームといはれる、結局この三チームが三巴戰を演ずるものと豫想が下される

三巴 戰の中でも戰ひの經過が順調に進めば、最も恐るべき曲者はアスレチック倶樂部である

讀書ページ

河合榮治郎編 『學生と讀書』

X・Y・Z

東大教授 河合榮治郎があこい問題にひつかゝりその多くの著書が發禁にされた、そのために彼の本が非常によく讀まれだした、彼の問題になつた書物までもよく讀まれるんだと皮肉に嗤つてた男がある、その事實はともかく日本評論社版の河合榮治郎編にかゝる『學生と讀書』はなか／＼よく讀まれてゐるらしい、ところでこれは事實彼の編輯したものに過ぎず彼自身の執筆したものは序文と『讀書の意義』の一文に過ぎないけれど全部を通してこのやうに編輯者の持つ意圖が隅々まで徹底してゐる書物といふものは實に少い私はこれを良書として單に學生のみならず廣く讀書人に推奬するのに些か、躊躇もない、唯この書を通讀して感じるのは何か河合榮治郎その人に對すると同じ物足りなさである

彼の人物 を改めていふまでもないが彼は嘗てマルクシズムが攻撃をとつてゐたときには反對主義者として惜敗を押されてゐたそれがマルクシズムの退潮のため彼の自由主義が〃進歩的思想〃の最前線になつた、然しこの〃進歩的思想〃は早くも急激な時代の轉換のために進歩的な役目を果すことが出來なかつた、何故かその答へは澤山あるけれど彼のやうに明察な知識人が常にかうした齟齬り合せになるのは彼が純粹な理論家があつても行動を知らないからである、或る程度理論がなくても行動人は時代の動きに隨いて行けるのではないか、これは危險な獨斷かも知れない、現に世界地圖の上を吹き荒ぶ颱風の嵐のさ中にあつて我々は良識といふものに謂はゞラヂオ・ビーコンの如く頼らねばならない事は明瞭してゐるが、しかもなほかくも混亂し方向を見失つて仕舞つた現代にはラヂオ・ビーコンと同じく良識の限界を敬しないではゐられない、この書物が良書としての限界もつまりそこにあるので若し若い人達がこの書物を讀むことによつて河合榮治郎のこの舞を踏むやうなことがあつたら大變である

さて彼は 冒頭の序文でいよ、若し祖國の必要が諸君を呼ぶならば諸君はいつにても起ちうるの準備は整へて置かねばならない、だが吾々が祖國の爲に起つのは決して學生々活の軌道から逸脱することではない……當代の日本は今までとは異る重き負擔を諸君の双肩に置くであらう、之を負擔しうるか否かは一に現在の學生生活が如何に送るかに係つてゐる〃といひ『讀書の回顧』といふ中で戸武田武雄は〃外には支那問題、內には產業制度及び教育制度改革の重大問題をひかへて明確な社會科學の認識とこれを擁ふ純潔な良心とを必要とする〃今日に於ける〃が如きはない、世界の法廷に立つて眞理を說き得るのは如何なる書物か……〃などと簡潔な美文で說いてゐる、實際なんとも異論の申しやうもない、內容は『讀書の意義』『讀書の回顧』『讀書の資料』の三部に分れ末尾に『統計にあらはれた現代學生の讀書傾向』の中には先に本紙で紹介した城大豫科の文化生活調査報告が附錄されてゐる（二圓、東京・京橋・ノの四、日本評論社）

國史說苑

文學博士 和田英松著

（本）書は先年物故された和田英松博士の遺稿を、さきの『國史國文之研究』の姉妹篇として新たに刊行されたもの、晩年には專ら皇室御撰之研究に心血をそゝがれてゐたが、その深く廣い學識は既に世に著聞する處、日本國史學の重鎭として仰がれてゐたことは今更贅述するまでもない、元來我國の傳統的な國史學は國學の線に沿つて發展して來たものであつたから學ひその研究の方法の文獻學、訓詁學中心のそれであつた物語物、有職故實等によつて後進を裨益された博士の如きも純粹な國史學者というよりも寧ろ多く文獻學者或は訓詁學者として著名であつた

（收）めるところ、昭和十二年一月御進講草案「日本書紀神武天皇ノ條及ビ其他史籍ニ見エタル忠君愛國ニ關スル史實」外、皇室と文學、院政に就いて、我が國の家族制度及び貴族制度に就いて、人質考・竹むきが記に就いて、群書類從の序致、谷川士清の事蹟等四十篇 諸文獻にあらはれた事蹟の考證などはその博覽強記振りまことに驚くべきものがある。日本史研究者及び國文學者にとつての好文獻（四圓五十錢、東京、神田、錦町一、明治書院）（11）

野々村直太郎著 宗教學入門

菊川幸夫

現代 の佛教は大別して聖道門、淨土門の二部門に分けてゐる、言ひかへれば自力教と他力教との二つの流れが我々の佛教の主流を形成してゐるのである。ところで本書は宗教學入門と題されてゐるが、主として自力教としての天台學の見地から宗教とは何か、或は佛教とは如何なるものであるべきかが解說されてゐる、著者は多年比叡の山家學徒として立つて來ただけに本書のところ／＼いけば宗教としての淨土教への對立意識をにじませてゐるのは微苦笑させる。さて著者によれば宗教として眞にその名に値する世界的宗教はキリスト教と佛教だとされ、佛教的或は天台學的に表現された宗教の本質がこゝに究明される、即ち『他律的自我の破壞を實現すべき方法の規範なり』といふのが著者の宗教の定義であるが、こゝから著者一流の論理が展開される。

とこ ろで他律的自我とは普通我々が意思とか理性といふ意味での自我のことでもあり、人間が社會生活を押しすゝめて行く場合、もう人間自身の意思とか理性でどうにもならなくなる羽目にぶちあたる、その時はじめて人間は自律的自我の境地を發見することが出來、宗教的に救はれるといふのである、つまりこれは佛教に於ける自力的な行き方なのであるが、宗教一般のレーゾンデートルを示してゐるといふ意味でも正當な見方といふことが出來る。

何となれば宗教は大づかみに言へば社會的自然的な壓力に對する外見的な人間の無力感にねざすところのひとつの轉倒された世界觀に外ならぬからである。

他律的自我から自律的自我の境地に飛躍するには人間は常識の世界からいはゆる悟道の境地、無我、如の出世の世界に飛びこまねばならない。

そこ で著者は現實にある現象の世界と宗教的直觀の世界との間に越えるべからざる二つの論理が對立することを示す、即ち現象としての世界を支配する論理は『世間的論理』であり、他は『出世間的論理』である、兩者の關係は『雙亦』或は『雙非』の關係にあつてお互に相互否定的であつてまた同時に相互肯定的であるとされる、しかし其場合何故二つの論理がかやうな辨證法的關聯にあるかは著者は充分な論證を示さないのである（否それが不可能なのかもしれない）勿論著者はしきりに禪問答式な言葉でもつて理解を强ひようとはするが、どれもこれも說明にも解明にも餘程縁遠いのである、この二つの論理の辨證法的關聯こそ實に宗教論に於ける最も實り多き箇所であるべきなのである。勿論このやうに著者にあつて理論的思推が徹底しないのは一般的に言つて日本の神學發展の貧しさ、或は西歐に見られたやうな中世千年のスコラ哲學の傳統が日本では形成されなかつたといふことによるかも知れない。

以上 に宗教の論理的分析について總括的したのであるが、その他宗教的理趣の表現樣式の範疇に要求得た研究や宗教の實踐について天台流の解說もあり、卷末には『根本法論八正道の批判』をのせてゐる、小冊子ながら天台學入門書としても一つの好參考書であらう。（一圓二十錢、京都上京・廣小路町、立命館出版部）

現代英文學の課題

第三高等學校教授 深瀨基寬著

（いは）ゆる英文學に關する研究書は多いが、それが專門的な立場から說かれたものは高踏的になり、通俗的な觀點から述べられたものは鳥瞰圖式乃至印象批評風といつたやうにその各部門の表皮を撫でた程度のものであるが、本書はその双方に陷ることを戒めながら、しかも現代英文學の投げかけ呼びかける課題を掘り下げて行つたところに特色がある

しかも、主として現に活躍しつゝあるJ・M・マリー及びT・S・エリオットの二人の文學觀とその思想とを解說することによつて、歐洲戰爭以後最近に至る二十年間の文學的な中心問題に觸れようとしてゐるのである。

（なる）程、著者もいつてゐるやうに、この時代こそは新しい意味での一つの文學時代といふことが出來て、そこに孕まれてゐる種々の問題を摘出することは、即ち現代英文學の課題を探ることにもなるのである。先づ英國現代の評論家としてマリー、エリオットを舉げ、ロマンチシズムとヒューマニズムの二形態をこの兩者の評論から引出してゐるところ、單に學者のための論文でなく、眞摯なる研究の累積であり、眞面目に氣安く味讀出來るところに好感が寄せられる（五十錢、東京・神田・駿河臺弘文堂書房）－東生

東亞聯盟論

宮崎正義著

支那 事變も長期建設に入り國論東亞協同體の誕生にむかつて統一されつゝある時、その具體的方策として板垣陸相は昨年九月十五日の滿洲國建國記念日に當つて東亞聯盟結成を强調した、著者もまた東亞聯盟こそ今後の日本發展の新方式であると同時に東亞諸民族を救ふ唯一の道なることを唱道して來つた、即ち本書は滿洲國ならびに中華民國人に呼びかけると共に日本人の正しい立場を明かにするため東亞聯盟の建設が我國に於ける內外一途の革新國策であり昭和維新の顯現である所以を明らかにせんことを意圖する

第一 篇（東亞聯盟の基礎觀念）に於いて聯盟建設政策の任務は第一に、現在までに見られた日支間の對立、相剋、抗爭の關係を和協、提携、相互依存、運命共同體の關係に轉換にありとし、現在我占領地域內に、北支の中華民國臨時政府、中支の中華民國維新政府及び蒙疆諸政府等成立し、斯る關係の基礎工作が進められつゝあることを述べる、第二に聯盟政策は西歐帝國主義植民政策の追從より共存への轉換を意味し、我帝國主義政策の放棄、西歐の東亞支配體制の打破、東亞の解放、東亞新體制の建設へ發展し、我大陸政策を根本的に轉換せしめることを指示し第三に聯盟政策は防共協定を樞軸とする我對外政策との關聯に於いて我が世界政策維新性の顯現を强調する

第二 篇（東亞聯盟の建設綱要）に於いてはそれの基礎條件として國防の共同、經濟の一體化、各聯盟の政治の獨立をあげてゐる。結成の指導原理は勿論王道であり、こゝに云ふ王道とは『根本的政治道德觀念に於いて、王道と一致する皇道に基き……東亞諸民族を解放し其統一の基礎の上に發展しつゝある皇國の國際政治指導理論』（一六五頁）を意味してゐる。（一圓五十錢、東京、芝、新橋、改造社）

近世印刷文化史考

收めるところ、明治維新と活版術（石井研堂）印刷文化に於ける日本的特徵（井上吉次郎）鑄造版について（小泉和吉）富岡製版合書物語（川田佐門次）號外雜考（田舘酷敬豐）等六十項、印刷關係者の好參考書（五圓五十錢、大阪南區上本町二、大阪出版社）

本木昌造翁　本邦活版術の始祖

勤王呼子笛【上・下卷】

戶川貞雄著

これは明治時代小說でも多彩絢爛なことは特筆すべきであらう。勤王の大義のために勃然蹶起して神出鬼沒、あらゆる變裝で倒幕で明治維新の捨石になつた平野國臣をめぐり月照禪師、中山忠光、西郷大久保、日照、井伊掃部頭、近藤勇等をはじめ國民の愛誦女、女傑等を迫る、花魁紫若その他を配した幕末史であるが、この作者には詩らしい夢がまだ磨りへらされてゐない。いはゆる大衆作家の黑達者が微塵もなく情熱を適宜に織り込んでゐるところ、好感を持つて讀まれるであらう（上・下卷各一圓六十錢 東京、神田、小川町一ノ一〇、八紘社）

二笑亭綺譚

式場隆三郞著

『二笑亭綺譚』は昨昭和十三年十一月號と十二月號の『中央公論』に發表され大きな反響をよんだ一精神病者の生活の記錄とも目すべきもの、精神分裂病患者赤木城吉（假名）によつて東京深川の數寄町に建てられた奇々怪々の建築物をめぐつて、その內部構造が主人公の內面的生活との關聯におい

新刊紹介

▲作歌用語新辭典附枕詞解（生田蝶介著）辭典の形式で作歌に必要なことばの語源を說明した入門必携の書（二圓五十錢、京都市上京區廣小路寺町東、立命館出版部）

▲われ等の建設（アドルフ・ヒトラー著）一九二八年ヒトラーが、伯林で全獨逸のナチス黨員になした大演說の全譯（一圓三十錢 東京神田・小川町一ノ一〇、青年書房）

▲蔗（モオパッサン原作秋田滋譯註）五十錢・東京・牛込・西五軒町三二・大[illegible]林

南風……和田三造【明治の古典から】

內燃機關燃料

鐵道技師・工學士 築山閏二著

近代 交通機關の畫期的な發展は內燃機關の發明によつてもたらされたといつても過言ではないがしかも內燃機關中最も重要なものは空には飛行機陸には自動車であるのは言ふまでもないところが厄介なことに內燃機關はその燃料として殆どその大部分をガソリンにたよる他なく我國の如く石油資源の極めて貧弱な國では實に文字通りに〃ガソリンの一滴は血の一滴〃を意味する

そこ で頁岩からとる液體燃料、ガス燃料、固體燃料等代用燃料生產が國策として大量の增產が計畫されてゐるのは周知の如くであるが、何といつても莫大な消費量を示してゐるのがガソリンであり、これを內燃機關燃料として如何に最優秀の燃料をもつて利用するかが時局下の問題となつてゐる

本書はかゝる意味で自動車その他の內燃機關研究者及び工業關係者への手引きとして生れたのである、試みに燃料消費節減及び機關裝置改善或は運轉者の技術向上の前提として著者の說へてゐるところは次の如くである

と たへば國別自動車一台當り年額消費量（平時）

國	ガロン
日本	八七〇〇
英國	二九〇〇
獨逸	二三〇〇
佛國	一九〇〇
伊太利	一九〇〇

これを見ると自動車一台當りのガソリン消費量が諸外國と比較を絕して莫大な數値を示してゐることがわかる、原因はいづれにあるとしても、元來自動車數が少なく從つて車輛の酷使に傾き易い我國の狀態では整備車輛の非能率と運轉技術の劣惡を反映してゐるかに見られこゝに燃料利用の改善と技術の優秀化を基調として內燃機關燃料の問題の重大性が强調される

內容は液體燃料、ガス燃料、薪炭ガスとガス發生器裝置等各般に亘つて理論實際の兩面からの詳細な研究よりなつてゐる（一圓八十錢、東京・神田・神保町二ノ一〇、山海堂出版部）

商業登記公告 [illegible]

水原支廳

商業登記公告 [illegible]

光州地方法院 鎭南浦支廳

商業登記公告 [illegible]

平康出張所

法人登記公告

法人登記公告
江界支廳

商業登記公告
江華出張所

商業登記公告
大田地方法院

法人登記公告
成興地方法院

全州地方法院

内鮮滿の親善に 青春自轉車部隊
各地の遠征群を迎へ
七月末絢爛の競技大會を開催

運動競技を通じて内鮮滿青年の相互の理解と緊密なる連絡を圖ると共に内鮮滿一如の氣風を醸成しようといふ見地から、日本體育協會の主唱により日本自轉車聯盟が主催となつて自轉車競技會を開催、內地側よりは滿洲、朝鮮、關東州にそれぞれ自轉車隊を派遣して日滿親善遠征競技を行ふことになつたその協力方について日本體育協會より朝鮮體育協會宛に四月一日依頼があつたので、朝鮮體育協會においても大いに歡迎、來る七月三十日京城グラウンドで盛大な内鮮自轉車競技大會を開催することゝなつた、なほ内地より遠征する自轉車隊日程、編成人員、競技方法資格等は左の通り決定した

派遣日程
七月二十五日　東京出發
七月三十日　內鮮一體自轉車競技大會（京城）
八月六日　日滿交歡自轉車競技大會（新京）
八月八日　日滿對抗自轉車競技大會（ハルビン）
八月十日　奉天自轉車競技大會（奉天）
八月十二日　大連慰問待役自轉車道路競技會（旅大道路）
八月十三日　大連自轉車競技大會（大連）
八月十四・十五日　大連出帆便船により歸途につく
自轉車隊編成人員
隊長一、幹事一、計一、隊員八名計十一名
競技方法　日本自轉車聯盟規則による
五百、千、二千、四千、五千、八千、一萬（和五三名宛出場）より若干名を選抜し、別に四千米又は二千米團體追抜競技（相互四名宛）を行ふ
資格
滿洲國内においては日滿運動競技協定による

潜水夫頓死

【釜山電話】三日午後二時二十分頃、慶南泗川郡南山の架設工事現場で潜水作業中の潜水夫慶南昌原郡大山面川西梅之助（三）は排氣の模様がないので引揚げて見た所 既に絶命してゐた空氣不調れのための窒息死か或は心臓麻痺による急死かと見られてゐる

軍神西住大尉の 偉業偲ぶ展覽會
三中井で愈よ蓋開け

徐州大會戰の華と散つた昭和の軍神戰車部隊長西住大尉の偉業とその生前の武人的面影を偲ぶ展覽會は一日から朝鮮軍報道部及び朝鮮京畿道、京城府各教育會共同後援で京城本町三中井百貨店六階で開かれた
西住大尉が今次事變に參加した三千數回の激戰の跡が寫眞に、チオラマ、繪に生々しく再生されて殺到する觀客の胸を強くひきつけてゐる、このほか世界列強の戰車寫眞の展覽會もあつて

責任何れへ？
運轉手か、使用者側か
スピード違反抗議、七日に判決

「雇つてゐる運轉手が規則外のスピードを出してスピード違反に問はれた場合の責任は、その自動車の使用主が責任を負ふべきや、それとも運轉手が負ふべきや」の重大判例を仰ぐべく京城府本町京城タクシー株式會社々長野々村三氏によつて提起された控訴審の判決は來る七日京城覆審法院矢本裁判長係りで言渡されることになつたが
朝鮮自動車取締規則にある「使用主」とは單なる自動車營業の營業主のみでなく、苟も自動車を有する人は官公署、會社を問はず、また營業、非營業の別なく極めて廣汎な意味を有するもので七日の判決は各方面の注意を惹いてゐる

車輛鑑札交附
出張所も取扱ふ

京城府における車輛鑑札の交付は從來府廳及び同龍山出張所の二ケ所で取扱つてゐたが、一日から同永登浦及び同東部の各出張所でも取扱ひを開始することになつたしかし車輛税額が本廳に備付けてある關係上、其の使用者住所は移轉、自轉車、自動自轉車などの比較的數量の少い車輛の鑑札の交付事務は、從前通り本廳で取扱ふことになつた

松の寶キャラメル

家庭教師の 入學詐欺

惡どい入學詐欺犯が東大門署に捕つた、京城孔德町五ノ一〇黃鍾秀さんの長男白秀君（一五）は入學試驗を受けた市内某實業學校から喜ばしい合格通知が來た、昨年の秋から入學準備の指導をしてくれた家庭教師新堂町三三二ノ一三一具某哲（二）が入學手續を責付けての納入を催促するので、黃鍾秀さんは入學手續金四十圓を具に渡した、ところが一日になつて學校から入學通知が來ないので不審を抱き黃さんが慌てゝ學校へ問合はせたところ、合格してゐる筈の伜が學校の合格者名簿に載つてゐないばかりか自分の受取つた合格通知書は僞物と判り、黃さんははじめて具に一杯喰はされたことと東大門署に届出た、具は一日夜新堂町の自宅で捕へられた

兇惡三人殺し捕る
一晝夜の超スピード捕物陣
馬山署に揚る凱歌

【釜山電話】慶南晉州郡井村面の山奥の一軒屋朴二緣方で留守居の三人を絞殺して逃走した殺人魔同家雇人張順大（二三）は事件發生後僅か一晝夜足らずの一日午前十一時慶南咸安郡山仁面新山里で馬山署員に逮捕された

イラン王國御慶事へ 奉祝御贈物

【上】我が皇室からイラン王國皇太子殿下に御贈進の御手筥【下】大飛行打合せの（右から）岩畑總裁、松井機長、清都通信士【右】平沼首相からイラン國首相へ贈る武者人形及び鹽野遞相から同國郵政大臣へ贈る銀製花瓶、持てるは大久保國際課長【東京電送寫眞】

報道部の試驗地獄

朝鮮軍司令部報道部では業務多忙につれ部員募集を行つたところ、試驗日の一日に應募者四十名が集まつた
試驗は十時間で十餘項の總括に就て『臨時政府一周年記念を祝す』の中一題を選んで論文を書けといふ難問、さてこの試驗にパスして時局の花形軍報道陣に一役買ふ譽れの人は何人ぞ

興亞戰線縱走記（三）
楡次にて　桑原特派員

民家の壁も鐵鑛
無煙炭一噸僅かに一圓程度
楡次は一番明るい街

十六日楡次に向ふ、平和の回復した故郷に歸く
農民の群は　時發車といふのに午前六時には早くも石家莊驛を長蛇の列で埋めて七時には改札、毎日積み殘される客の數は夥しいものがある、汽車は僅かに平原を縫つて卅分後、獲鹿からはいよいよ北山西の大山岳地帶、家屋は全く趣きを變へ、山腹には無數の穴居があつて、畑上は畑となり、屋内は穴居とはいへ中には王侯貴顯の家宮もあると か、雲知嶺、花和尚の暴れまはつた白八山栗、水滸傳の舞臺もかくやあらんと思はれる
重疊の峻嶮　が連り微水、井陘、娘子關と森本、南雲鈴木、鯉登等の郷土部隊奮戰の跡は碑石に墓標に生々しい感慨をとどめ、硝火に山容を改めた娘子關附近の險路は戰に不朽の幽瞑で綴る追懐記錄がそのまゝ繰はれるのである、今年から小學校が開かうといふことになつて、内地から六人の先生に來て貰つたが、いまのところ兒童は僅かに五名といふ有樣、もつとく
腰を据ゑて　東洋の大建設に邦人の質の向上が望ましいと同氏は熱心に語るのである
「山西の無煙炭、ことに陽泉のそれは最も良質だが、山もとで一噸二圓、それが石家莊では十四、五圓、朝鮮では噸卅圓にもなる、ナント、八十億の軍事費位は無盡藏の山西の寶庫で浚でも出ると思ひますよ
その民家の　壁なども全部鐵鑛なんだから勿體ない話です」
と青年宣撫官の氣焰はつきない、娘子關附近は北支第一の清洌な水を湛へて、幾千年の流れに洗はれた奇岩怪嶂の間を滑り、ところどころに見る貧に廻る水車、水路を行く驢馬の隊商、此處では時にその進行をとめて千古變るなき雄渾たる絶景をつくる、鯉登部隊記念の望臺の瀧も千米の滑瀑玉と飛行

て東急に迫り
人跡稀れな　總谷に何をして生きて行くやら老いたる内地人の婦人二人、流離の手を休めて鐵橋を行く汽車を見送る、この附近は兎が多いときけば、株を守つて兎を待つた農夫の故事は斯迷な山西の民かと思はれ、らずかしく、楡次着は七時正太線がこんな平穩な運行のもとに廿日ばかりのことだ、楡次は
最も明るい　街、造ンペラに代り靴爐の楡次までである

伊の訪日親善機
來る四日ローマ出發

【ローマ三十一日同盟】昨年十一月日伊親善飛行の途次シリア海岸に不時着挫折したイタリー省通り行けば東京には六日早朝到着するはずである

8ミリニュース

一人一研究に授賞

京畿道聯合青年團主催の「一人一研究」發表會は既報の通り京畿道會議室で開催、道職員中十五名からそれぞれによる研究を發表したが、村青年の眞摯なる實践研究なので列席者を感激させ

日本古美術展終る

【ベルリン三十一日同盟】

國勢調査職員募集

板垣博士の講演

明治町株式街に 合百師又蠢動
あの手この手の潜行

昨夏以來數次の大手入れで四散したかと思はれた京城明治町株式街一帶に鵜喰ふ合百師達が、最近再び未然に防止されたこともあり……合百師達の小さな利益爭奪のために株界攪亂の虞れがあるので

白木寫眞班員 戰線の華と散る

【廣東一日同盟】一日午前十時支那派遣軍報道部發表＝報道部長二月廿七日以來從軍せられ、西北デルタ地帶の掃蕩戰に參加中の重要任務を帶びて活躍中であつた軍報道部員及び各社寫眞班員…

全國中等選拔野球

中京商業勝つ
對小倉工業戰

東邦商業快勝
對北海商業戰

梨花女子專門 入試合格者

陸軍食糧學校 生徒募集

保育學校

家事科學科

孝昌町の小火

南風の唄（75）

加藤武雄 作
富田千秋 畫

轉がる石（二）

何處へ行つても早速きがしなかつた。銀座の酒場を二軒變つた後、淺草の公園近くの珈琲店に移つた。丁度路上の石ころが行人の履物に蹴飛ばされて次から次へと轉がつて行くやうなものである。いや、石ではなかつた。珠だつた。だから奇な拾はふとする。が、拾はれたと思ふと直ぐにその手から滑り落ちてしまふ。そして何處かへ飛んで行つてしまふ。珠ではない。小鳥だつた。

「然う？」

幸子は氣乘りのしない調子だつた。

「ね、幸子さん、あんたは私の一生の恩人よ。私が斯うしてゐられるのもみんなあなたのおかげなのよ」

「そんな事云ひつこ無し！」

「いゝえ、私、お母さんとも、いつもあんたのお噂してゐるの。お母さんも、是非一度お目にかゝつて御禮申上げ度いと云つてゐるのよ」

「御病氣はどうなの？」

「えゝ、もう癒くなつたわ。――本當に、あんたのおかげよ。いつか此度御恩返ししなきやとお母さんとも話してゐるのよ」

「いやだわ、いつまでそんな事云つてゐるの。」

「本當よ！――ねえ、幸子さん、これから私ん許へ來て下さらない？」

「行つてどうするの？」

「阿母さんに會つてやつて下さいな。ね、是非一度お目にかゝり度いつて云つてるんですから。」

「でも、私、お禮なんか云はれるのは厭よ。あんたに云はれただけでもう澤山なのに！」

「だつて――私、阿母さんからも賴まれてゐるんですもの――。ねちや、何もお禮なんか云はせないやうにするわ。せめて、顏だけでも見せてやつて呉れない？」

さうまで云はれると、無下にもことはりかねたが、

「でも、今夜はもう遲いでせう。」

すのがれの氣持で云つた。

それは果のない小鳥だつた。

或る夜、皆が退けての歸り途、

「八つちやん！――幸子さん！」

後から呼び掛けられて振返つて見ると美代子だつた。

「アラ！美代子さん。」

「たうとう會へてネ。」

美代子は懷かしげに幸子に抱きついて、

「此頃此方に居るの？」

「えゝ、あんたは――？」

「私も此方よ。マア宜かつたわ、會へて。私どんなに會ひ度かつたか知れないのよ。此間あんたらしい人を見たから後を追つかけたんだけど――ぢや矢張あんただつたのネ？」

「然う――？」

それは幸子も知つてゐた。が、態と氣がつかぬ振をして逃げて了つたのは、あの事で何や彼やとお禮など云はれるのが厭だからだつた。

「八つちやんつて、大きな聲で呼んだのにさ。」

「然う？」幸子は知らなかつた。今矢張前のやうなところで働いてゐるの？」

「えゝ、外に仕方がないもの。あんたは――？」

「相變らずよ。」

少し酒の入つてゐるらしい幸子は、やゝ赤らんだ顏で笑つて見せた。例の投けやりな微笑である。

「何處？」

「此の直ぐ近く。だけどもう外の店へ變らうと思ふの。――あんた今お宅にいらつしやるの？」

「えゝ、今は自宅から通つてゐるの。お父さんが居なくなつたんで自宅へ歸れる事になつたの。」

DK　二日（日）　オヂラ

第一放送　朝の部

午前六・二〇　ニュース
六・三〇（東）季節の話題　山鹿　松岡明治
六・四五（名）季節の聲
七・〇〇（東）時報
七・〇一（東）朝の修養　皇道　瞼揮　親雄
（一）
七・二〇（城）宮城遙拜
七・四〇（城）ラヂオ體操・今日の天氣見込（咸興を除く）
九・二〇（城）氣象通報
九・三〇（東）童謠（わらべうた）（一）サクラサクラ（二）カゴメカゴメ（四）セツセツセ（五）ホタルコイ（六）カヘロカヘロ（七）ドウドウメグリ（八）オ月サマイクツ（九）坊サン坊サン（一〇）ツウボナツパナ（一一）オマツリ（一二）チョンキナ（一三）手マリウタ　中山梶子、佐久間節子、奈良原鈴木　安江（伴奏）東京放送管絃樂團（指揮）三宅　幹夫
一〇・〇〇（東）週間を顧みて（録音）
一〇・四〇入學試驗合格者發表

晝の部

一一・五〇（大）海外市況
（京城）―昭和工科學校引續き（大）第十六回全國選拔中等學校野球大會實況―甲子園野球場より中繼―◎備考（一）京城以外は午前一〇・五〇より野球中繼とす（二）野球休止の場合は宗教▲印中繼
正午（東）時報
午後〇・〇五（東）合唱（一）國民歌（二）海行かば（三）國歌（四）雲雀（五）久米らた（六）花と汀と人と（七）輝く朝　アイラ混聲合唱團　指揮）平井保喜
〇・三〇　ニュース
一・〇〇（東）和洋合奏（一）思ひ出（時局歌集（二）接續曲「歌日記」ミクニ和洋合奏團（指揮）岡村　雅吉
▲一・三〇（東）筝曲（一）新娘調　筝（地）宮崎春昇、同（本手）富保増子、同（本手）宮崎澄子、（二）萬歲樂　筝宮崎富美代三絃（本手）富崎春昇、同（替手）富山清琴
▲一・五〇（大）琵琶　栗津ヶ原（島津雨作詞・橘旭宗作曲）山崎　旭翠

觀戰記
時機迄辛抱が肝要
軍扇何れに揚がる？

六段　飯塚勘一郎

當代一流　爭霸戰譜

平手
先　四段　加藤　富久
　　四段　小堀　清一

【第八局】

全鮮選手權大會
決戰譜
準決勝戰

互先　一級　岩田　修（釜山代表）
先番　初段　山本彰一郎（京城代表）

黑手拔の不利な理由

講評　七段　瀬越憲作

從來の定說

高目定石より有利

民有林野の緣化並增產運動

京城營林署長　淺野　力

あすのよみもの

三日（月）